NEC Express5800シリーズ
Express5800/R120b-2

4 運用・保守編

装置の運用および保守について説明します。

日常の保守

装置を常にベストな状態でお使いになるために、ここで説明する確認や保守を定期的に行ってください。万一、異常が見られた場合は、無理な操作をせずに保守サービス会社に保守を依頼してください。

アップデートの確認・適用

Express5800シリーズでは、本体および周辺機器のBIOS、FW（ファームウェア）、ドライバなどのアップデート情報を弊社Webサイトの以下のページに掲載しています。システムの安定稼働のため、常に最新のアップデートを適用いただくことをお勧めいたします。

NEC コーポレートサイト(http://www.nec.co.jp/)
［サポート・ダウンロード］－［PCサーバ］

なお、本体のBIOS、FW（ファームウェア）につきましては、適用が必要なアップデートの検出・ダウンロード・適用をサポートするツール「ExpressUpdate」も提供しています。
「ExpressUpdate」は、本体添付のDVD「EXPRESSBUILDER」内に格納されています。

- **最新アップデートのダウンロードおよび適用作業は、お客様自身で実施ください。**
- **最新アップデートの適用にあたっては、万一の場合に備えて、適用前にデータをバックアップされておくことをお勧めいたします。**

アラートの確認

システムの運用中は、ESMPROで障害状況を監視してください。
管理PC上のESMPRO/ServerManagerにアラートが通報されていないか、常に注意するよう心がけてください。ESMPRO/ServerManagerの「アラートビューア」でアラートが通報されていないかチェックしてください。

＜ESMPROでチェックする画面＞

ESMPRO/ServerManager

アラートビューア

ステータスランプの確認

本体の電源をONにした後、およびシャットダウンをして本体の電源をOFFにする前に、本体前面にあるランプの表示を確認してください。ランプの機能と表示の内容については「ハードウェア編」の「ランプ表示（170ページ）」をご覧ください。万一、本体の異常を示す表示が確認された場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。

バックアップ

定期的に本体のハードディスクドライブ内の大切なデータをバックアップすることをお勧めします。最適なバックアップ用ストレージデバイスやバックアップツールについてはお買い求めの販売店にお問い合わせください。

ハードウェアの構成を変更したり、BIOSの設定を変更した後は、オフライン保守ユーティリティの「システム情報の管理」機能を使ってシステム情報のバックアップをとってください(130ページを参照)。

RAID システムを構築しているシステムでは、EXPRESSBUILDER を使用してRAID システムのコンフィグレーション情報をバックアップしてください。また、ハードディスクドライブの故障によるリビルドを行った後もコンフィグレーション情報をバックアップすることをお勧めします。コンフィグレーション情報のバックアップについては、第3章「ソフトウェア編」EXPRESSBUILDER を参照してください。

クリーニング

装置を良い状態に保つために定期的にクリーニングしてください。

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- **自分で分解・修理・改造はしない**
- **プラグを差し込んだまま取り扱わない**

本体のクリーニング

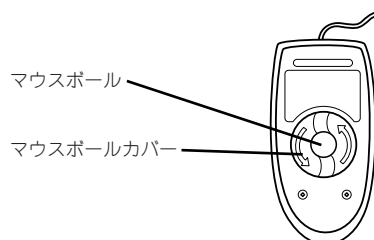
本体の外観の汚れは、柔らかい乾いた布で汚れを拭き取ってください。汚れが落ちにくいときは、次のような方法できれいになります。

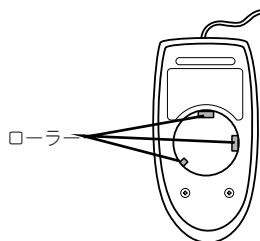
- **シンナー、ベンジンなどの揮発性の溶剤は使わないでください。材質のいたみや変色の原因になります。**
- **コンセント、ケーブル、本体背面のコネクタ、本体内部は絶対に水などでぬらさないでください。**

1. 本体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認する。
2. 本体の電源コードをコンセントから抜く。
3. 電源コードの電源プラグ部分についているほこりを乾いた布でふき取る。
4. 中性洗剤をぬるま湯または水で薄めて柔らかい布を浸し、よく絞る。
5. 汚れた部分を手順4の布で少し強めにこすって汚れを取る。
6. 真水でぬらしてよく絞った布でもう一度ふく。
7. 乾いた布でふく。

キーボード/マウスのクリーニング

キーボードは本体および周辺機器を含むシステム全体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認した後、キーボードの表面を乾いた布で拭いてください。
マウスが正常に機能するためには、内部のマウスボールがスムーズに回転できる状態でなければなりません。マウスボールの汚れを防ぐためにほこりの少ない場所で使用して、定期的に次の手順でクリーニングしてください。

1. 本体の電源がOFF（POWERランプ消灯）になっていることを確認する。
2. マウスを裏返してマウスボールカバーを反時計回りに回して中からマウスボールを取り出す。

3. マウスボールを乾いた柔らかい布などでふいて、汚れを取り除く。

   汚れがひどいときはぬるま湯、または水で薄めた中性洗剤を少量含ませてふいてください。

4. マウス内部にある3つの小さなローラを綿棒などでふく。

   汚れがひどいときはアルコールなどを少量含ませてふいてください。

5. マウスボールをマウスの中に戻す。

   手順3、4でマウスボールやローラをぬらした場合は、十分に乾燥させてからボールを入れてください。

6. マウスボールカバーを元に戻して、時計回りに回してロックする。

ディスクのクリーニング

CD-ROMなどの光ディスクにほこりがついていたり、トレーにほこりがたまっていたりするとデータを正しく読み取れません。次の手順に従って定期的にトレー、ディスクのクリーニングを行います。

1. 本体の電源がON（POWERランプ点灯）になっていることを確認する。
2. 光ディスクドライブ前面のトレーイジェクトボタンを押す。

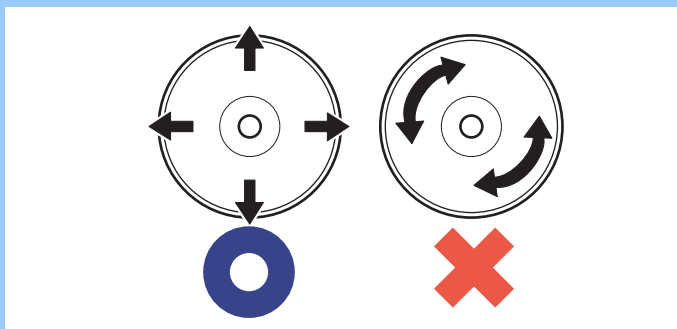
   トレーが光ディスクドライブから出てきます。
3. ディスクを軽く持ちながらトレーから取り出す。

> **重要** ディスクの信号面に手が触れないよう注意してください。

4. トレー上のほこりを乾いた柔らかい布でふき取る。

> **重要** 光ディスクドライブのレンズをクリーニングしないでください。レンズが傷ついて誤動作の原因となります。

5. トレーを軽く押してトレーを光ディスクドライブに戻す。
6. ディスクの信号面を乾いた柔らかい布でふく。

> **重要** ディスクは、中心から外側に向けてふいてください。クリーナをお使いになるときは、専用のクリーナであることをお確かめください。レコード用のスプレー、クリーナ、ベンジン、シンナーを使用すると、ディスクの内容が読めなくなったり、装置にそのディスクをセットした結果、故障したりするおそれがあります。

テープドライブのクリーニング

テープドライブのヘッドの汚れはファイルのバックアップの失敗やテープカートリッジの損傷の原因となります。定期的に専用のクリーニングテープを使ってクリーニングしてください。クリーニングの時期やクリーニングの方法、および使用するテープカートリッジの使用期間や寿命についてはテープドライブに添付の説明書を参照してください。

システム診断

システム診断は装置に対して各種テストを行います。
「EXPRESSBUILDER」の「Tool menu」から「Test and diagnostics」を選択して診断してください。

システム診断の内容

システム診断には、次の項目があります。

- 本体に取り付けられているメモリのチェック
- CPUキャッシュメモリのチェック
- システムとして使用されているハードディスクドライブのチェック

システム診断を行う時は、必ず本体に接続しているLANケーブルを外してください。接続したままシステム診断を行うと、ネットワークに影響をおよぼすおそれがあります。

ハードディスクドライブのチェックでは、ディスクへの書き込みは行いません。

システム診断の起動と終了

システム診断には、本体に直接接続されたコンソール（キーボード）を使用する方法と、シリアルポート経由で接続されている管理PCのコンソールを使用する方法（コンソールレス）があります。
それぞれの起動方法は次のとおりです。

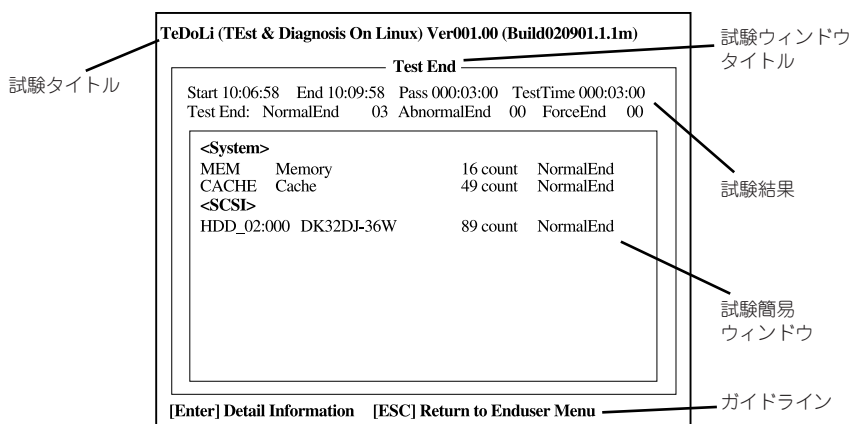
「保守ツール」では、コンソールレスでの通信方法にLANとCOMポートの2つの方法を記載していますが、コンソールレスでのシステム診断ではCOMポートのみを使用することができます。

1. シャットダウン処理を行った後、本体の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
2. 本体に接続しているLANケーブルをすべて取り外す。
3. 電源コードをコンセントに接続し、本体の電源をONにする。
4. 「EXPRESSBUILDER」DVDを使ってシステムを起動する。

5. 本体のコンソールを使用して起動する場合は「Tool menu(Normal mode)」を、コンソールレスで起動する場合は「Tool menu(Redirection mode)」を選択する。

システムによっては、Language selectionメニューが表示される場合があります。Language selectionメニューが表示された場合は「Japanese」を選択します。

6. TOOL MENUの「Test and diagnostics」を選択する。

Test and diagnosticsの「End-User Mode」を選択してシステム診断を開始します。約3分で診断は終了します。
診断を終了するとディスプレイ装置の画面が次のような表示に変わります。

試験タイトル

診断ツールの名称およびバージョン情報を表示します。

試験ウィンドウタイトル

診断状態を表示します。試験終了時にはTest Endと表示します。

試験結果

診断開始・終了・経過時間および終了時の状態を表示します。

ガイドライン

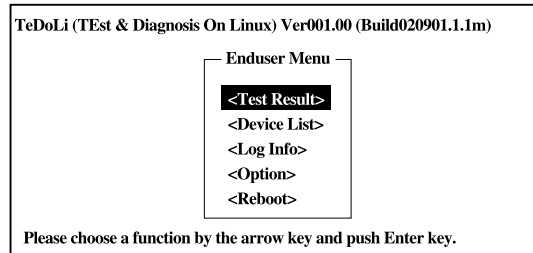
ウィンドウを操作するキーの説明を表示します。

試験簡易ウィンドウ

診断を実行した各試験の結果を表示します。カーソル行で<Enter>キーを押すと試験の詳細を表示します。

システム診断でエラーを検出した場合は試験簡易ウィンドウの該当する試験結果が赤く反転表示し、右側の結果に「Abnormal End」を表示します。
エラーを検出した試験にカーソルを移動し<Enter>キーを押し、試験詳細表示に出力されたエラーメッセージを記録してお買い求めの販売店、または保守サービス会社に連絡してください。

7. 画面最下段の「ガイドライン」に従い<Esc>キーを押す。

   以下のエンドユーザーメニューを表示します。

   <Test Result>
   前述の診断終了時の画面を表示します。

   <Device List>
   接続されているデバイス一覧情報を表示します。

   <Log Info>
   試験ログを表示します。試験ログを保存することができます。試験ログを保存する場合は、FATフォーマット済みのリムーバブルメディアをセットし、<Save(F)>を選択してください。

   <Option>
   オプション機能が利用できます。

   <Reboot>
   システムを再起動します。

8. 上記エンドユーザーメニューで<Reboot>を選択する。

   再起動し、システムがEXPRESSBUILDERから起動します。

9. EXPRESSBUILDERを終了し、光ディスクドライブからDVDを取り出す。
10. 本体の電源をOFFにし、電源コードをコンセントから抜く。
11. 手順2.で取り外したLANケーブルを接続し直す。
12. 電源コードをコンセントに接続する。

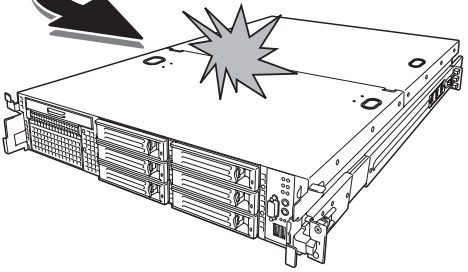
以上でシステム診断は終了です。

障害時の対処

「故障かな？」と思ったときは、ここで説明する内容について確認してください。該当することがらがある場合は、説明に従って正しく対処してください。

障害箇所の切り分け

万一、障害が発生した場合は、ESMPRO/ServerManagerを使って障害の発生箇所を確認し、障害がハードウェアによるものかソフトウェアによるものかを判断します。
障害発生個所や内容の確認ができたら、故障した部品の交換やシステム復旧などの処置を行います。

障害がハードウェア要因によるものかソフトウェア要因によるものかを判断するには、ESMPRO/ServerManagerが便利です。

サーバの障害発生箇所、
および障害内容を確認

エラーメッセージ

本体になんらかの異常が起きるとさまざまな形でエラーを通知します。ここでは、エラーメッセージの種類について説明します。

POST中のエラーメッセージ

本体の電源をONにすると自動的に実行される自己診断機能「POST」中に何らかの異常を検出すると、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示します。また、エラーの内容によってはビープ音でエラーが起きたことを通知します。

```
:
System Monitoring Check
... Passed
ERROR
AE81: CPU1_DIMM1 with error is enabled.
AE01: CPU1_DIMM1 has been disabled.
AE04: CPU1_DIMM4 has been disabled.

Press <F1> to resume, <F2> to setup
```

メモリの故障を示すメッセージ（例ではCPU1_DIMM1とCPU1_DIMM4が故障して縮退し、CPU1_DIMM1を強制立ち上げした場合の表示）

次にエラーメッセージの一覧と原因、その対処方法を示します。

保守サービス会社に連絡するときはディスプレイの表示やビープ音のパターンをメモしておいてください。アラーム表示は保守を行うときに有用な情報となります。

POSTのエラーメッセージ一覧は本体のみのものです。マザーボードに接続されているオプションのSCSIコントローラボード、RAIDコントローラに搭載されているBIOSのエラーメッセージとその対処方法についてはオプションに添付の説明書を参照してください。

画面に表示されるエラーメッセージ

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意　味	対処方法
8001 Real time clock error	リアルタイムクロックエラー。	SETUPを起動して、時刻や日付を設定し直してください。設定し直しても同じエラーが続けて起きるときは保守サービス会社に連絡してください。
8002 Check date and time settings	リアルタイムクロックの時刻設定に誤りがある。	
8003 System battery is dead - Replace and run SETUP	システムのバッテリがない。	保守サービス会社に連絡してバッテリを交換してください。(交換後、SETUPを起動して設定し直してください。)
8005 Previous boot incomplete - Default configuration used	前回のシステム起動時POSTが完了しませんでした。	SETUPで設定し直してください。
8006 System configuration data cleared by Jumper.	ジャンパによってSETUPの設定がクリアされた。	SETUPの設定を再度行ってください。
8007 SETUP Menu Password cleared by Jumper.	ジャンパによってSETUPメニューパスワードがクリアされました。	SETUPでパスワードを再設定してください。
8010 Graphics controller was not detected.	Graphicsコントローラが検出されなかった。	保守サービス会社に連絡してください。
8800 DXE_NB_ERROR	Chip Setの初期化でエラーが検出された。	
8801 DXE_NO_CON_IN	Consoleの初期化でエラーが検出された。	
8802 DXE_NO_CON_OUT		
8803 PEI_DXE_CORE_NOT_FOUND	Flash ROMの故障が検出された。	
8804 PEI_DXEIPL_NOT_FOUND		
8805 DXE_ARCH_PROTOCOL_NOT_AVAILABLE		
8806 PEI_RESET_NOT_AVAILABLE	システムのResetが正常に行われなかった。	
8807 DXE_RESET_NOT_AVAILABLE		
8808 DXE_FLASH_UPDATE_FAILED	Flash ROMへの書き込みが正常に行われなかった。	
8830 PEI_RECOVERY_NO_CAPSULE	Flash ROMのリカバリが正常に行われなかった。	
8831 PEI_RECOVERY_PPI_NOT_FOUND		
8832 PEI_RECOVERY_FAILED		
9000 PEI_CPU_NO_MICROCODE	未サポートのCPU搭載を検出した。	
9001 Unsupported CPU detected on CPU #1		
9002 Unsupported CPU detected on CPU #2		
9021 Unsupported CPU Speed detected on CPU #1	未サポートのクロックスピードのCPU搭載を検出した。	
9022 Unsupported CPU Speed detected on CPU #2		
9040 PEI_CPU_SELF_TEST_FAILED	CPUの初期化でエラーが検出された。	
9060 PEI_CPU_MISMATCH	CPU#1と#2とで異なったCPUが搭載されている。	
A001 Memory Error detected in CPU1_DIMM1	CPU1_DIMM1でエラーを検出した。	
A002 Memory Error detected in CPU1_DIMM2	CPU1_DIMM2でエラーを検出した。	
A003 Memory Error detected in CPU1_DIMM3	CPU1_DIMM3でエラーを検出した。	

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
A004	Memory Error detected in CPU1_DIMM4	CPU1_DIMM4 でエラーを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
A005	Memory Error detected in CPU1_DIMM5	CPU1_DIMM5 でエラーを検出した。	
A006	Memory Error detected in CPU1_DIMM6	CPU1_DIMM6 でエラーを検出した。	
A007	Memory Error detected in CPU2_DIMM1	CPU2_DIMM1 でエラーを検出した。	
A008	Memory Error detected in CPU2_DIMM2	CPU2_DIMM2 でエラーを検出した。	
A009	Memory Error detected in CPU2_DIMM3	CPU2_DIMM3 でエラーを検出した。	
A00A	Memory Error detected in CPU2_DIMM4	CPU2_DIMM4 でエラーを検出した。	
A00B	Memory Error detected in CPU2_DIMM5	CPU2_DIMM5 でエラーを検出した。	
A00C	Memory Error detected in CPU2_DIMM6	CPU2_DIMM6 でエラーを検出した。	
AE01	CPU1_DIMM1 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU1_DIMM1 が縮退している。	
AE02	CPU1_DIMM2 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU1_DIMM2 が縮退している。	
AE03	CPU1_DIMM3 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU1_DIMM3 が縮退している。	
AE04	CPU1_DIMM4 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU1_DIMM4 が縮退している。	
AE05	CPU1_DIMM5 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU1_DIMM5 が縮退している。	
AE06	CPU1_DIMM6 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU1_DIMM6 が縮退している。	
AE07	CPU2_DIMM1 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU2_DIMM1 が縮退している。	
AE08	CPU2_DIMM2 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU2_DIMM2 が縮退している。	
AE09	CPU2_DIMM3 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU2_DIMM3 が縮退している。	
AE0A	CPU2_DIMM4 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU2_DIMM4 が縮退している。	
AE0B	CPU2_DIMM5 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU2_DIMM5 が縮退している。	
AE0C	CPU2_DIMM6 has been disabled.	メモリエラーを検出した。CPU2_DIMM6 が縮退している。	
AE81	CPU1_DIMM1 with error is enabled.	CPU1_DIMM1 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
AE82	CPU1_DIMM2 with error is enabled.	CPU1_DIMM2 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
AE83	CPU1_DIMM3 with error is enabled.	CPU1_DIMM3 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
AE84	CPU1_DIMM4 with error is enabled.	CPU1_DIMM4 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
AE85	CPU1_DIMM5 with error is enabled.	CPU1_DIMM5 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
AE86	CPU1_DIMM6 with error is enabled.	CPU1_DIMM6 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
AE87	CPU2_DIMM1 with error is enabled.	CPU2_DIMM1 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
AE88	CPU2_DIMM2 with error is enabled.	CPU2_DIMM2 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
AE89	CPU2_DIMM3 with error is enabled.	CPU2_DIMM3 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	保守サービス会社に連絡してください。
AE8A	CPU2_DIMM4 with error is enabled.	CPU2_DIMM4 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
AE8B	CPU2_DIMM5 with error is enabled.	CPU2_DIMM5 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
AE8C	CPU2_DIMM6 with error is enabled.	CPU2_DIMM6 を縮退したが全てのメモリが縮退中のため強制的に有効とした。	
B000	DXE_LEGACY_OPROM_NO_SPACE	オプション ROM の展開エリアがありません。	Boot させないボードのオプション ROM 展開を無効にしてください。
B001	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 1B	PCI スロット 1B のオプション ROM の展開ができませんでした。	そのボードより Boot させない場合はそのボードのオプション ROM の展開を無効にしてください。
B002	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 2B	PCI スロット 2B のオプション ROM の展開ができませんでした。	
B003	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 3B	PCI スロット 3B のオプション ROM の展開ができませんでした。	
B004	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 1C	PCI スロット 1C のオプション ROM の展開ができませんでした。	
B005	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 2C	PCI スロット 2C のオプション ROM の展開ができませんでした。	
B006	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 3C	PCI スロット 3C のオプション ROM の展開ができませんでした。	
B00A	Expansion ROM not initialized - PCI Slot 0A	PCI スロット 0A のオプション ROM の展開ができませんでした。	
B030	PCI System Error on Bus/Device/Function	PCI SERR を検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
B040	PCI Parity Error on Bus/Device/Function	PCI PERR を検出した。	
C010	The error occurred during temperature sensor reading	温度センサの読み出し中にエラーを検出した。	
C011	System Temperature out of the range.	温度異常を検出した。	ファンの故障、またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
C020	The error occurred during voltage sensor reading.	電圧センサの読み出し中にエラーを検出した。	保守サービス会社に連絡してください。
C021	System Voltage out of the range.	システムの電圧に異常を検出した。	
C040	SROM data read error	SROM のデータリードエラー。	
C041	SROM data checksm bad	SROM のデータチェックサムエラー。	
C060	SMBus device Error detected.	SM Bus でエラーが検出された。	
C061	1st SMBus device Error detected.	1st SM Bus でエラーが検出された。	
C062	2nd SMBus device Error detected.	2nd SM Bus でエラーが検出された。	
C063	3rd SMBus device Error detected.	3rd SM Bus でエラーが検出された。	
C064	4th SMBus device Error detected.	4th SM Bus でエラーが検出された。	
C065	5th SMBus device Error detected.	5th SM Bus でエラーが検出された。	
C066	6th SMBus device Error detected.	6th SM Bus でエラーが検出された。	

ディスプレイ上のエラーメッセージ		意　味	対処方法
C101	BMC Memory Test Failed.	BMCデバイス(チップ)のエラー。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C102	BMC Firmware Code Area CRC check failed.		
C103	BMC core hardware failure.		
C104	BMC IBF or OBF check failed.	BMCのアドレスへのアクセスに失敗した。	
C105	BMC SEL area full.	システムイベントログを書き込める容量がない。	SETUPを起動して、「Server」メニューの「Event Log Configuration」で、「Clear All Error Logs」を選び、<Enter>キーを押してログを消去してください。
C106	BMC set in progress monitoring timeout.	BMCチェックを一時中断した。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C107	BMC command access failed.	BMCコマンドアクセスに失敗した。	
C108	Could not redirect the console - BMC Busy -	コンソールリダイレクトができない(BMCビジー)。	
C109	Could not redirect the console - BMC Error -	コンソールリダイレクトができない(BMCエラー)。	
C10A	Could not redirect the console - BMC Parameter Error -	コンソールリダイレクトができない(BMCパラメータエラー)。	
C10B	BMC Platform Information Area corrupted.	BMCデバイス(チップ)エラー。	
C10C	BMC update firmware corrupted.		
C10D	Internal Use Area of BMC FRU corrupted.	Chassis情報を格納したSROMの故障。	致命的な障害ではありませんが、一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C10E	BMC SDR Repository empty.	BMCデバイス(チップ)エラー。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C10F	IPMB signal lines do not respond.	SMC(Sattelite Management Controller)の故障。	致命的な障害ではありませんが、一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C110	BMC FRU device failure.	Chassis情報を格納したSROMの故障。	致命的な障害ではありませんが、一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C111	BMC SDR Repository failure.	センサデータレコード情報を格納したSROMの故障。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C112	BMC SEL device failure.	BMCデバイス(チップ)の故障。	
C113	BMC RAM test error.	BMC RAMのエラー。	
C114	BMC Fatal hardware error.	BMCのエラー。	
C115	Management controller not responding	BMCのエラー。	RMCのファームウェアをアップロードしてください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C116	Private I2C bus not responding.	プライベートI2Cバスより無応答。	一度電源をOFFにして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C117	BMC internal exception	BMCのエラー。	
C118	BMC A/D timeout error.	BMCのエラー。	
C119	SDR repository corrupt.	BMCのエラーまたはSDRのデータの破損。	
C11A	SEL corrupt.	BMCのエラーまたはシステムイベントログのデータの破損。	
C200	The error occurred during memory configuration check.	Memoryの情報が正常に取得できなかった。	

ディスプレイ上のエラーメッセージ	意　味	対処方法
C201　Memory Configuration change is detected.	前回の起動から Memory の構成に変化があった。	前回の起動から構成が変更された場合に表示されます。構成が変更されていない場合に表示された場合には保守サービス会社に連絡してください。
C202　The error occurred during CPU configuration check.	CPU の情報が正常に取得できなかった。	一度電源を OFF にして、起動し直してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡してください。
C203　CPU Configuration change is detected.	前回の起動から CPU の構成に変化があった。	前回の起動から構成が変更された場合に表示されます。構成が変更されていない場合に表示された場合には保守サービス会社に連絡してください。

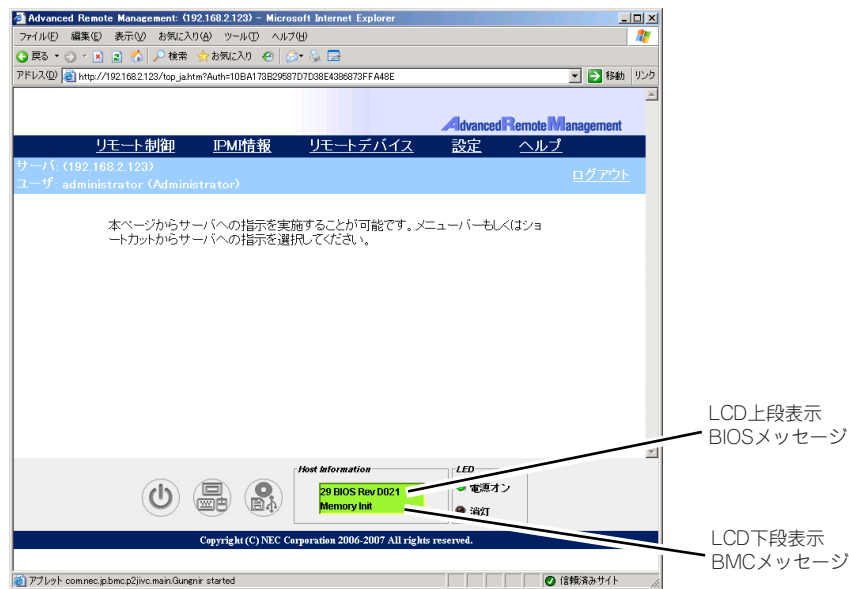
ビープ音によるエラー通知

POST中にエラーを検出しても、ディスプレイ装置の画面にエラーメッセージを表示できない場合があります。この場合は、一連のビープ音でエラーが発生したことを通知します。エラーはビープ音のいくつかの音の組み合わせでその内容を通知します。
たとえば、ビープ音が1回、連続して3回、3回、1回の組み合わせで鳴った（ビープコード: 1-3-3-1）ときはメモリの容量チェック中のエラーが起きたことを示します。

次にビープコードとその意味、対処方法を示します。

ビープコード	意　味	対処方法
1-3-3-1	メモリを検出できない メモリの容量チェック中のエラー 未サポートCPU が実装されている可能性がある。	DIMM の取り付け状態を確認してください。それでも直らない場合は保守サービス会社に連絡して DIMM、CPU、またはマザーボードを交換してください。
1-1	グラフィックコントローラを検出できない。	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
1	POST でエラー検出された。	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
3	BIOS の実行部分の読み込みができません。 もしくは、BIOS の実行部分がありません。	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
4	BIOS の実行部分の初期化が行えません。	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。
7	システムのリセットが行えません。	保守サービス会社に連絡してマザーボードを交換してください。

仮想LCD上のエラーメッセージ

EXPRESSSCOPEエンジン 2（BMC）Webブラウザ画面上で、仮想LCDのエラーメッセージを確認できます。上段と下段それぞれのエラーメッセージの一覧と障害内容、その対処方法を示します。
仮想LCDについては、EXPRESSSCOPEエンジン 2ユーザーズガイドを参照してください。

● **LCD上段表示メッセージ**

LCD 上段表示 BIOS メッセージ	障害内容	対処方法
XX BIOS Rev XXXX	POST 実行中の表示です	POST が完了するまでお待ちください。
Prepare To Boot	POST が完了すると表示されます。正常に動作しています。	Boot が完了するまでお待ちください。
CPU1_DIMM C-Err	CPU1 側のどれかのメモリで修復可能なエラーが発生しました。	エラーは修復されましたのでそのまま運用してください。
CPU2_DIMM C-Err	CPU2 側のどれかのメモリで修復可能なエラーが発生しました。	エラーは修復されましたのでそのまま運用してください。
Mem Err Disable	メモリの修復可能エラーが多発しました。	保守サービス会社に連絡してください。
Mem Reconfigured	メモリが縮退した状態で動作しています。	
PCI Bus SERR　XX	PCI バスの SERR が発生しました。	
PCI Bus PERR　XX	PCI バスの PERR が発生しました。	

● LCD下段表示メッセージ

LCD 下段表示 BMC メッセージ	障害内容	対処方法
Proc1 VccpAlm XX	電圧異常を検出。 XX が09 の場合上限異常を示す。 XX が02 の場合下限異常を示す。 警告レベルの電圧異常を検出。 XX が07 の場合上限警告を示す。 XX が00 の場合下限警告を示す。	保守サービス会社に連絡してください。
Proc2 VccpAlm XX		
Proc1PVtt Alm XX		
Proc2PVtt Alm XX		
Proc1 1.5v Alm XX		
Proc2 1.5v Alm XX		
BB 1.0vsb Alm XX		
BB 1.1v Alm XX		
BB 1.2vsb Alm XX		
BB +1.5v Alm XX		
BB +1.8v Alm XX		
BB 1.8vsb Alm XX		
BB +3.3v Alm XX		
BB 3.3vsb Alm XX		
BB +5.0v Alm XX		
BB 5vsb Alm XX		
BB +12v Alm XX		
VBAT Alm XX		
BB Temp1 Alm XX	温度異常を検出した。 XX が09 の場合高温異常を示す。 XX が02 の場合低温異常を示す。 警告レベルの温度異常を検出した。 XX が07 の場合高温警告を示す。 XX が00 の場合低温警告を示す。	ファンの故障またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
FP Temp Alm XX		
Proc1 Therm % XX		
Proc2 Therm % XX		
CPU1_DIMM1 Temp XX		
CPU1_DIMM2 Temp XX		
CPU1_DIMM3 Temp XX		
CPU1_DIMM4 Temp XX		
CPU1_DIMM5 Temp XX		
CPU1_DIMM6 Temp XX		
CPU2_DIMM1 Temp XX		
CPU2_DIMM2 Temp XX		
CPU2_DIMM3 Temp XX		
CPU2_DIMM4 Temp XX		
CPU2_DIMM5 Temp XX		
CPU2_DIMM6 Temp XX		
DUMP Request !	ダンプボタンが押された。	メモリダンプが採取し終わるまでお待ちください。
OS shutdown Alm	OS の STOP エラーが発生した。	画面に表示されたメッセージを記録し、メモリダンプが採取し終わるまでお待ちになった後、保守サービス会社に連絡し保守を依頼してください。
Power Unit 1 Alm	電源ユニット 1 の異常が発生した。	電源コードが接続されているか確認し、それでも直らない場合は、保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
Power Unit 2 Alm	電源ユニット 2 の異常が発生した。	
Proc Missing	CPU が実装されていない。	保守サービス会社に連絡し、CPU またはマザーボードを交換してください。

LCD下段表示 BMCメッセージ	障害内容	対処方法
Proc1 T-Trip	CPU1の温度異常により強制電源OFFを行った。	保守サービス会社に連絡してください。
Proc2 T-Trip	CPU2の温度異常により強制電源OFFを行った。	
ChipSet T-Trip	ChipSetの温度異常により強制電源OFFを行った。	
CPU1_DIMM U-Err	CPU1側のどれかのメモリで修復不能エラーが発生した。	
CPU2_DIMM U-Err	CPU2側のどれかのメモリで修復不能エラーが発生した。	
Processor1 IERR	CPU1の内部エラー(IERR)が発生した。	
Processor2 IERR	CPU2の内部エラー(IERR)が発生した。	
SMI timeout	システム管理割り込み処理中にタイムアウトが発生した。	
WDT timeout	ウォッチドックタイマタイムアウトが発生した。	
HDD 1 Fault	ハードディスクドライブが縮退した状態で動作しています（オプションのRAIDコントローラ(N8103-129/130/134)使用時のみサポート)。 HDD 7 Fault ～ HDD 8 Faultは2.5型ディスクモデルのみ。 * 2.5型ディスクモデルでN8154-35増設時のみ。	
HDD 2 Fault		
HDD 3 Fault		
HDD 4 Fault		
HDD 5 Fault		
HDD 6 Fault		
HDD 7 Fault		
HDD 8 Fault		
HDD 9 Fault *		
HDD 10 Fault *		
HDD 11 Fault *		
HDD 12 Fault *		
Sys Fan 1R Alarm	ファンアラームを検出した。	ファンの故障またはファンの目詰まりが考えられます。保守サービス会社に連絡して保守を依頼してください。
Sys Fan 2R Alarm		
Sys Fan 3R Alarm		
Sys Fan 4R Alarm		
Sys Fan 1F Alarm		
Sys Fan 2F Alarm		
Sys Fan 3F Alarm		
Sys Fan 4F Alarm		

Windowsのエラーメッセージ

Windowsオペレーティングシステムの起動後に致命的なエラー（STOPエラーやシステムエラー）が起きるとディスプレイ装置の画面がブルーに変わり、エラーに関する詳細なメッセージが表示されます。

```
*** STOP: 0x0000000A (0x00000074, 0x00000002, 0x00000001, 0x80108E7A)
IRQL_NOT_LESS_OR_EQUAL*** Address 80108E7A has base at 8010000 _ ntoskrnl.exe
```

画面に表示されたメッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。
また、このエラーが起きると自動的にメモリダンプを実行し任意のディレクトリにメモリダンプのデータを保存します（「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」（111ページを参照））。のちほど保守サービス会社の保守員からこのデータを提供していただくよう依頼される場合があります。MOやDATなどのメディアにファイルをコピーしての保守員に渡せるよう準備しておいてください。

STOPエラーやシステムエラーが発生しシステムを再起動したとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのまま起動してください。

このファイルをメディアにコピーする前に、イベントビューアを起動して、システムイベントログでSave Dumpのイベントログが記録され、メモリダンプが保存されたことを確認してください。

このほかにもディスクやネットワーク、プリンタなど内蔵デバイスや周辺機器にエラーが起きた場合にも警告メッセージが表示されます。メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

サーバ管理アプリケーションからのエラーメッセージ

ESMPRO/ServerAgentやESMPRO/ServerManager、RAIDシステム管理ユーティリティなどの管理ツールを本装置や管理PCへインストールしておくと、何らかの障害が起きたときに管理PCや本体に接続しているディスプレイ装置から障害の内容を知ることができます。

各種アプリケーションのインストールや運用方法についてはソフトウェア編、またはオンラインドキュメントを参照してください。
ESMPROを使ったシステム構築や各種設定の詳細についてはオンラインヘルプで詳しく説明されています。

トラブルシューティング

思うように動作しない場合は修理に出す前に次のチェックリストの内容に従って本装置をチェックしてください。リストにある症状に当てはまる項目があるときは、その後の確認、処理に従ってください。
それでも正常に動作しない場合は、ディスプレイ装置の画面に表示されたメッセージを記録してから、保守サービス会社に連絡してください。

本体について

[?] 電源がONにならない

□ 電源が本体に正しく供給されていますか？

→ 電源コードが本体の電源規格に合ったコンセント（またはUPS）に接続されていることを確認してください。

→ 本体に添付の電源コードを使用してください。また、電源コードの被覆が破れていたり、プラグ部分が折れていたりしていないことを確認してください。

→ 接続したコンセントのブレーカがONになっていることを確認してください。

→ UPSに接続している場合は、UPSの電源がONになっていること、およびUPSから電力が出力されていることを確認してください。詳しくはUPSに添付の説明書を参照してください。
また、BIOSセットアップユーティリティでUPSとの電源連動機能の設定ができます。

□ POWERスイッチを押しましたか？

→ 本体前面にあるPOWERスイッチを押して電源をON（POWERランプ点灯）にしてください。

[?] 電源がOFFにならない

□ POWERスイッチの抑止機能を有効にしていませんか？

→ いったんシステムを再起動して、BIOSセットアップユーティリティを起動してください。
<確認するメニュー：「Security」→「Power Switch Inhibit」>

[?] POSTが終わらない

□ メモリが正しく搭載されていますか？

→ メモリが正しく搭載されているか確認してください。

□ 大容量のメモリを搭載していますか？

→ 搭載しているメモリサイズによってはメモリチェックで時間がかかる場合があります。しばらくお待ちください。

- □ システムの起動直後にキーボードやマウスを操作していませんか？
  - → 起動直後にキーボードやマウスを操作すると、POSTは誤ってキーボードコントローラの異常を検出し、処理を停止してしまうことがあります。そのときはもう一度、起動し直してください。また、再起動直後は、BIOSの起動メッセージなどが表示されるまでキーボードやマウスを使って操作しないよう注意してください。
- □ 本装置で使用できるメモリ・PCIデバイスを搭載していますか？
  - → 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

[?] 内蔵デバイスや外付けデバイスにアクセスできない（または正しく動作しない）

- □ ケーブルは正しく接続されていますか？
  - → インタフェースケーブルや電源ケーブル（コード）が確実に接続されていることを確認してください。また接続順序が正しいかどうか確認してください。
- □ 電源ONの順番を間違っていませんか？
  - → 外付けデバイスを接続している場合は、外付けデバイス、本体の順に電源をONにします。
- □ ドライバをインストールしていますか？
  - → 接続したオプションのデバイスによっては専用のデバイスドライバが必要なものがあります。デバイスに添付の説明書を参照してドライバをインストールしてください。
- □ オプションボードの設定を間違えていませんか？
  - → PCIデバイスについては通常、特に設定を変更する必要はありませんが、ボードによっては特別な設定が必要なものもあります。詳しくはボードに添付の説明書を参照して正しく設定してください。
  - → シリアルポートやパラレルポート、USBポートに接続しているデバイスについては、I/Oポートアドレスや動作モードの設定が必要なものもあります。デバイスに添付の説明書を参照して正しく設定してください。

[?] キーボードやマウスが正しく機能しない

- □ ケーブルは正しく接続されていますか？
  - → 本体背面や前面にあるコネクタに正しく接続されていることを確認してください。
  - → 本体の電源がONになっている間に接続すると正しく機能しません（USBデバイスを除く）。いったん本体の電源をOFFにしてから正しく接続してください。
- □ BIOSの設定を間違えていませんか？
  - → BIOSセットアップユーティリティでキーボードの機能を変更することができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。
- □ ドライバをインストールしていますか？
  - → 使用しているOSに添付の説明書を参照してキーボードやマウスのドライバがインストールされていることを確認してください（これらはOSのインストールの際に標準でインストールされます）。また、OSによってはキーボードやマウスの設定を変更できる場合があります。使用しているOSに添付の説明書を参照して正しく設定されているかどうか確認してください。

【?】 CD-ROMなどの光磁気ディスクにアクセスできない・正しく再生できない

□ 光ディスクドライブのトレーに確実にセットしていますか？

→ トレーにはディスクを保持するホルダーがあります。ホルダーで確実に保持されていることを確認してください。

□ 本装置で使用できるディスクですか？

→ CD規格に準拠しない「コピーガード付きCD」などのディスクにつきましては、CD再生機器における再生の保証はいたしかねます。

→ Macintosh専用のディスクは使用できません。

【?】 ハードディスクドライブにアクセスできない

□ 本体で使用できるハードディスクドライブですか？

→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

□ ハードディスクドライブは正しく取り付けられていますか？

→ ハードディスクドライブの取り付け状態やケーブルの接続状態を確認してください。

【?】 SCSI機器（内蔵・外付け）にアクセスできない

□ 本体で使用できるSCSI機器ですか？

→ 弊社が指定する機器以外は動作の保証はできません。

□ SCSIコントローラの設定を間違えていませんか？

→ オプションのSCSIコントローラボードを搭載し、SCSI機器を接続している場合は、SCSIコントローラボードが持つBIOSセットアップユーティリティで正しく設定してください。詳しくはSCSIコントローラボードに添付の説明書を参照してください。

□ SCSI機器の設定を間違えていませんか？

→ 外付けSCSI機器を接続している場合は、SCSI IDや終端抵抗などの設定が必要です。詳しくはSCSI機器に添付の説明書を参照してください。

【?】 OSを起動できない

□ 「EXPRESSBUILDER」DVDをセットしていませんか？

→ 「EXPRESSBUILDER」DVDを取り出して再起動してください。

□ N8151-81 内蔵MO(USB)またはN8151-86 内蔵RDX(USB)にカートリッジが入っていませんか？

→ カートリッジを抜くか、BIOS SetupのBootメニューでブート順位の変更を行ってください。

□ PCIカードにディスクアレイ装置が接続されていますか？

→ BIOS SetupのBootメニューのHDD Drive BBS Prioritiesでブートデバイスの設定変更を行ってください。

【?】 ネットワーク上で認識されない

□ ケーブルを接続していますか？

→ 本体背面にあるネットワークポートに確実に接続してください。また、使用するケーブルがネットワークインタフェースの規格に準拠したものであることを確認してください。

□ BIOSの設定を間違えていませんか？

□ BIOSセットアップユーティリティで内蔵のネットワークコントローラを無効にすることができます。BIOSセットアップユーティリティで設定を確認してください。

□ プロトコルやサービスのセットアップを済ませていますか？

→ 本体ネットワークコントローラ用のネットワークドライバをインストールしてください。また、TCP/IPなどのプロトコルのセットアップや各種サービスが確実に設定されていることを確認してください。

Windowsについて

【?】 Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008/Windows Server 2003のシステム起動時に、システムイベントログに次のような内容の警告が記録される場合がある

イベントID： 11
ソース： iANSMiniport
種類： 警告
分類： なし
説明： 次のアダプタリンクは接続されていません。
Intel(R) ～

イベントID： 13
ソース： iANSMiniport
種類： 警告
分類： なし
説明： Intel(R) ～　がチームで無効化されました。

イベントID： 16
ソース： iANSMiniport
種類： 警告
分類： なし
説明： [チーム名]、最後のアダプタはリンクを失いました。ネットワークの接続が失われました。

イベントID： 22
ソース： iANSMiniport
種類： 警告
分類： なし
説明： プライマリアダプタはプローブを検出しませんでした。Intel(R) ～
原因でチームが分割されている可能性があります。

→ ネットワークアダプタでチームを設定した場合、システム起動時に上記のイベントログが記録されますが、LAN ドライバの動作上問題ありません。

[?] Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008のシステム起動時、次のような内容の警告がシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID : 27
ソース : e1qexpress
種類 : 警告
説明 : Intel(R) 82576 Gigabit Dual Port Network Connec...
Network link has been disconnected.

→ システム起動時またはシステムのアップデート適用時に記録される場合、システム動作上問題ありません。

[?] Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008のインストール時、システムのアップデート時に以下のような警告がアプリケーションイベントログに記録される場合がある

イベント ID : 63
ソース : WMI
種類 : 警告
説明 : 'プロバイダNcs2 はLocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間Root¥IntelNCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上問題ありません。

[?] Windows Server 2008 R2 のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある

イベント ID : 134
ソース : Microsoft-Windows-Time-Service
種類 : 警告
説明 : '' でのDNS 解決エラーのため、NtpClient でタイムソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。3473457 分後に再試行し、それ以降は2倍の間隔で再試行します。

→ システム運用上問題ありません。

?] Windows Server 2008 R2 のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある

イベント ID : 1534
ソース : Microsoft-Windows-User Profiles Service
種類 : 警告
説明 : コンポーネント {56EA1054-1959-467f-BE3B-A2A787C4B6EA} のイベントCreate のプロファイル通知は失敗しました。

→ システム運用上問題ありません。

イベント ID : 1015
ソース : Microsoft-Windows-Security-SPP
種類 : 警告
説明 : HRESULT の詳細情報。
返された hr = 0xC004F022、元の hr = 0x80049E00

→ ライセンス認証後に登録されていなければ、システム運用上問題ありません。

【?】Windows Server 2008 R2の運用中、iSCSIを認識している状態でOSを再起動した場合、次のような警告がシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID　：1
ソース　：iScsiPrt
種類　：エラー
説明　：イニシエーターはターゲットへの接続に失敗しました。ダンプ データにターゲットIPアドレスとTCPポート番号が示されています。

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/976072/ja

【?】Windows Server 2008 R2の運用中、書き込み禁止ボリュームを有するサーバへシャドーコピーインポートを行った場合、次のような警告がアプリケーションイベントログに記録される場合がある

イベント ID　：8193
ソース　：VSS
種類　：エラー
説明　：ボリューム シャドウ コピー サービス エラー : ルーチン IOCTL_DISK_GET_DRIVE_LAYOUT_EX(¥¥?¥mpio#disk&ven_nec&prod_istorage_1000&rev_1000#1&7f6ac24&0&3030303030303030313030303030323830303046 36#{ GUID })- BuildLunInfoForDrive の呼び出し中に予期しないエラーが発生しました。
hr = 0x80070013, このメディアは書き込み禁止になっています。

イベント ID　：12289
ソース　：VSS
種類　：エラー
説明　：予期しないエラー DeviceIoControl(¥¥?¥storage#volume#_??_mpio#disk&ven_nec&prod_istorage_1000&rev_1000#1&7f6ac24&0&30303030303030303130303030303238303030463 6#{ GUID}#0000000000007e00#{ GUID }-00000000000002B8, x00560000, 0000000000000000,0,00000000004866D0,4096,[0]) です。
hr = 0x80070013, このメディアは書き込み禁止になっています。

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/2003016/ja

【?】Windows Server 2008 R2の運用中、フロッピードライブを有するサーバへシャドーコピーインポートを行った場合、次のような警告がアプリケーションイベントログに記録される場合がある

イベント ID　：12289
ソース　：VSS
種類　：エラー
説明　：ボリューム シャドウ コピー サービス エラー:予期しないエラー DeviceIoControl(¥¥?¥fdc#generic_floppy_drive#6&6a032c4&0&0#{ GUID }-00000000000002B0,0x00560000, 0000000000000000,0,00000000001EC0E0,4096,[0]) です。
hr = 0x80070001, ファンクションが間違っています。

→ 詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/2003968/ja

【?】 Windows Server 2008 R2のシステム使用時に、次のような内容の警告がシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID : 1004
ソース : IPMIDRV
種類 : 警告
説明 : IPMI デバイス ドライバーは、通常の動作状態で IPMI BMC デバイスと通信しようとしましたが、タイムアウトしたために通信に失敗しました。
IPMI デバイス ドライバーに関連付けられたタイムアウト時間は長くすることができます。

→ 上記イベントログが記録されることがありますが、通常は、IPMIコマンドのリトライ処理が行われるため、運用上の支障はありません。

【?】 Windows Server 2008 R2 環境で「システムのアップデート」を実行すると、シャットダウン時に以下のメッセージが一瞬表示されることがある

［表示メッセージ］
1 個のプログラムが閉じられていません：
（待機中）Task Host Window

→ システムの運用上問題はありません。
詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照してください。
http://support.microsoft.com/kb/975777/ja-jp

【?】 Windows Server 2008のインストールを行うと、以下のようなシステムイベントログが登録される場合がある

イベント ID : 5
ソース : storflt
種類 : 警告
説明 : The Virtual Storage Filter Driver is disabled through the registry.
It is inactive for all disk drives.

イベント ID : 134
ソース : Microsoft-Windows-Time-Service
種類 : 警告
説明 : 'time.windows.com,0x9' での DNS 解決エラーのため、NtpClient でタイム ソースとして使う手動ピアを設定できませんでした。
15 分後に再試行し、それ以降は再試行間隔を 2 倍にします。
エラー : Hote inconnu. (0x80072AF9)

イベント ID : 263
ソース : PlugPlayManager
種類 : 警告
説明 : サービス 'ShellHWDetection' は停止する前に、デバイス イベント通知の登録解除を行っていない可能性があります。

イベント ID : 7000
ソース : Service Control Manager
種類 : エラー
説明 : Parallel port driver サービスを、次のエラーが原因で開始できませんでした: '指定されたサービスは無効であるか、または有効なデバイスが関連付けられていないため、開始できません。

イベント ID　:　15016
ソース　:　Microsoft-Windows-HttpEvent
種類　:　エラー
説明　:　サーバー側認証用のセキュリティ パッケージ Kerberos を初期化できません。データ フィールドにはエラー番号が格納されています。

→　システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2008のインストールを行うと、以下のようなアプリケーションイベントログが登録される場合がある

イベント ID　:　63
ソース　:　Microsoft-Windows-WMI
種類　:　警告
説明　:　プロバイダ Ncs2 は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 Root¥IntelNCS2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ IntelEthernetDiag は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 Root¥CIMv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

プロバイダ WmiPerfClass は LocalSystem アカウントを使うためにWindows Management Instrumentation 名前空間 root¥cimv2 に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

イベント ID　:　1020
ソース　:　EvntAgnt
種類　:　エラー
説明　:　レジストリパラメータの処理中にエラーが発生しました。
拡張エージェントは終了中です。

イベント ID　:　1054
ソース　:　Security-Licensing-SLC
種類　:　警告
説明　:　コンポーネントエラーです。hr=0x80049E00, [4, 3]

イベント ID　:　2019
ソース　:　EvntAgnt
種類　:　エラー
説明　:　SNMP Event Log Extension Agentが正しく初期化されませんでした。

イベント ID　:　3001
ソース　:　EvntAgnt
種類　:　警告
説明　:　ログファイルは末尾に配置されませんでした。

イベント ID　:　3003
ソース　:　EvntAgnt
種類　:　警告
説明　:　ログファイルの終わりの配置エラー
一番古いログレコードを取得できません。指定されたハンドルは17891340です。
GetOldestEventLogRecordからのリターンコードは223です。

→　システム運用上、問題ありません。

イベント ID　:　6000
ソース　:　Microsoft-Windows-Winlogon
種類　:　警告
説明　:　通知イベントを処理するwinlogon　通知サブスクライバー <GPClient> を使用できませんでした。

イベント ID　:　6001
ソース　:　Microsoft-Windows-Winlogon
種類　:　警告
説明　:　winlogon 通知サブスクライバー <GPClient> で通知イベントに失敗しました。

イベント ID　:　1500
ソース　:　SNMP
種類　:　エラー
説明　:　レジストリキー
SYSTEM¥CurrentControlSet¥Services¥SNMP¥Parameters¥PermittedManagers をアクセスしているときにSNMP サービスはエラーを検出しました。

→　システム運用上、問題ありません。

[?]　Windows Server 2008のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID　:　10
ソース　:　VDS 動的なプロバイダ
説明　:　ドライバからの通知を格納するが、プロバイダに失敗しました。
仮想ディスク サービスを再起動する必要があります。hr = 80042505

→　詳細については次のMicrosoft 社のWeb サイトを参照ください。
http://support.microsoft.com/kb/948275/ja

【?】 Windows Server 2008のインストールを行うと、次のイベントがシステムイベントログに記録される場合がある

ソース　：　Microsoft-Windows-Security-Licensing-SLC
種類　：　警告
イベント ID　：　1021
説明　：　SLUINotify サービスを開始できませんでした。hr=0x80070424

→　ライセンス認証画面より、ライセンス認証を行ってください。

ソース　：　Microsoft-Windows-User Profiles Service
種類　：　警告
イベント ID　：　1534
説明　：　コンポーネント {56EA1054-1959-467f-BE3B-A2A787C4B6EA} のイベント Create のプロファイル通知は失敗しました。
エラー コードは -2147023591 です。

→　ログオン時一度登録される場合がありますが、システム運用上問題ありません。

【?】 Windows Server 2008 のシステム使用時に、次のような内容の警告がシステムイベントログに記録される場合がある

イベント ID　：　1004
ソース　：　IPMIDRV
種類　：　警告
説明　：　IPMI デバイス ドライバーは、通常の動作状態で IPMI BMC デバイスと通信しようとしましたが、タイムアウトしたために通信に失敗しました。
IPMI デバイス ドライバーに関連付けられたタイムアウト時間は長くすることができます。

→　上記イベントログが記録されることがありますが、通常は、IPMIコマンドのリトライ処理が行われるため、運用上の支障はありません。

【?】 Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　：　LoadPerf
種類　：　エラー
イベント ID　：　3009
説明　：　サービス C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini (C:¥WINDOWS¥syswow64¥ipsecprf.ini) のパフォーマンス カウンタの文字列をインストールできませんでした。エラー コードはデータ セクションの最初の DWORD です。

→　システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : DCOM
種類 : エラー
イベント ID : 10016
説明 : コンピュータ既定 権限の設定では、CLSID {555F3418-D99E-4E51-800A-6E89CFD8B1D7} をもつ COM サーバーアプリケーションに対するローカルアクティブ化アクセス許可をユーザーNT AUTHORITY¥LOCAL SERVICE SID (S-1-5-19) に与えることはできません。このセキュリティのアクセス許可は、コンポーネント サービス管理ツールを使って変更できます。

→ システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : WinMgmt
種類 : 警告
イベント ID : 5603
説明 : プロバイダRsop Planning Mode ProviderはWMI名前空間root¥RSOPに登録されましたが、HostingModel プロパティが指定されませんでした。このプロバイダは LocalSystem アカウントで実行されます。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。プロバイダのセキュリティの動作を確認し、プロバイダ登録の HostingModel プロパティを、必要な機能が実行可能な最小限の権限を持つアカウントに更新してください。

→ システム運用上、問題ありません。

[?] Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース : WinMgmt
種類 : 警告
イベント ID : 63
説明 : プロバイダ HiPerfCooker_v1 は LocalSystem アカウントを使うためにWMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

: プロバイダ WMIProv は LocalSystem アカウントを使うためにWMI 名前空間 Root¥WMI に登録されました。このアカウントには特権があり、プロバイダがユーザー要求を正しく偽装しない場合はセキュリティ違反が起こる可能性があります。

→ システム運用上、問題ありません。

【?】 Windows Server 2003 x64 Editionsのインストールを行うと、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　：　Service Control Manager
種類　：　エラー
イベント ID　：　7011
説明　：　Dfs　サービスからのトランザクション応答の待機中にタイムアウト (30000ミリ秒) になりました。

→　再起動後にこのイベントが登録されていない場合、問題ありません。

【?】 Windows Server 2003/Windows Server 2003 x64 EditionsでIntel(R) PROSetをインストール時にアプリケーションログに次のような警告が記録される場合がある

ソース　：　WinMgmt
種類　：　警告
イベント ID　：　5603
説明　：　プロバイダNcs2 はWMI 名前空間RootHostingModel プロパティを指定しませんでした。このプロバイダは、LocalSystemアカウントを使って実行されます。このアカウントは特権を与えられているため、プロバイダが正しくユーザー要求を偽装できない場合、セキュリティ違反を起こす可能性があります。

→　システム運用上問題ありません。

【?】 Windowsの動作が不安定

□　システムのアップデートを行いましたか？

→　OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。
システムのアップデート手順は、「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されている各OSのインストレーションサプリメントガイドを参照してください。

【?】 Windows Server 2003 サービスパックを適用後、Windows Server 2003 R2 DISC 2をインストールした

→　サービスパックを再適用してください。なお、Windows Server 2003 R2 DISC 2をインストール後に一度でもサービスパックを適用している場合は、サービスパックを再適用する必要はありません。

＊　インストール時の適用順序が不明な場合は、サービスパック再適用を推奨します。

[?] Windows Server 2003 R2の運用中、以下のようなイベントログが登録される場合がある

ソース　：IPMIDRV
種類　：エラー
イベント ID　：1001
説明　：IPMIデバイス ドライバは、IPMI BMCデバイスがシステムでサポートされているかどうか判断しようとしました。このドライバは、SMBIOSのType38 レコードを検索できることで IPMI BMCを検出しようとしましたが、レコードが見つからないか、レコードにデバイス ドライバのバージョンとの互換性がありませんでした。SMBIOSのType 38 レコードが見つかっている場合は、イベントのDump Dateフィールドにこのレコードがバイナリ表示されます。

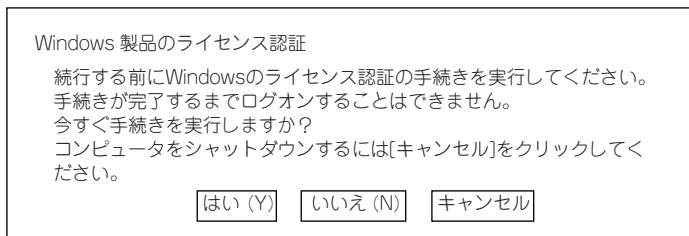
→ Windows Server 2003 R2において提供されている「ハードウェアの管理」を利用している場合、上記のイベントログが登録されます。
詳細な内容については、下記の「Windows Server 2003 R2で提供される「ハードウェアの管理」利用の手引き」を参照してください。

http://support.express.nec.co.jp/care/techinfo/w2k3r2_wm.pdf

[?] 以下のメッセージが表示されログインできなくなった

Windows 製品のライセンス認証

続行する前にWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。
手続きが完了するまでログオンすることはできません。
今すぐ手続きを実行しますか?
コンピュータをシャットダウンするには[キャンセル]をクリックしてください。

[はい (Y)] [いいえ (N)] [キャンセル]

□ Windows製品のライセンス認証手続きを完了していますか?

→ Windows Server 2003では、Windows製品のライセンス認証手続きを完了しないまま使用していると、上記のメッセージが表示されます。[はい]を選んでWindowsのライセンス認証の手続きを実行してください。

[?] Windows Server 2003の運用中、イベントビューアに下記内容のEvntAgntの警告が登録される場合がある

イベントID:　1003

説明:　TraceFileNameパラメータがレジストリにありません。
使用した既定のトレース ファイルは です。

イベント ID:　1015

説明:　TraceLevel パラメータがレジストリにありません。
使用した既定のトレース レベルは32です。

→ システム運用上、問題ありません。

[?] Windowsのインストールを正しくできない

□ インストール時の注意事項を確認していますか?

→ Windows Server 2003は87ページ(またはオンラインドキュメント)を参照してください。

【?】Windowsのインストール中、イベントビューアのシステムログに次のような内容の警告が記録される

ページング操作中にデバイス ¥Device¥CdRom0上でエラーが検出されました。

→　システムの運用上、問題ありません。

【?】Windowsのインストール中、テキストベースのセットアップ画面で、文字化けしたメッセージが表示され、インストールが続行できない

□　複数のハードディスクドライブを接続したり、RAIDコントローラ配下に複数の論理ドライブを作成してインストールを行っていませんか？

→　OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブをいったん取り外した状態でインストールを行ってください。

→　RAIDコントローラ配下のディスクにインストールする場合は、論理ドライブを複数作成せず、1つだけ作成してインストールを行ってください。複数の論理ドライブを作成する場合は、インストール完了後、RAIDシステムのコンフィグレーションユーティリティを使用して追加作成してください。

【?】Windowsのインストール中、イベントビューアのシステムログに以下のログが出力される

サーバはトランスポート¥Device¥NetBT_Tcpip_{.....}にバインドできませんでした。

トランスポートが初期アドレスのオープンを拒否したため、初期化に失敗しました。

ネットワークの別のコンピュータが同じ名前を使用しているため、サーバーはトランスポート¥Device¥NetbiosSmbにバインドできませんでした。サーバーを起動できませんでした。

→　ネットワークドライバの更新時に発生します。システムの運用上、問題ありません。

[?] Windowsのインストール後にデバイス マネージャで日本語106/109 キーボードが英語101/102 キーボードと認識される

→ デバイス マネージャでは英語101/102キーボードと認識されていますが、キーボードの入力は日本語106/109キーボードの配列で行うことができます。日本語106/109キーボードに変更したいときは、以下の手順で変更してください。

(1) [スタートメニュー]から[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。

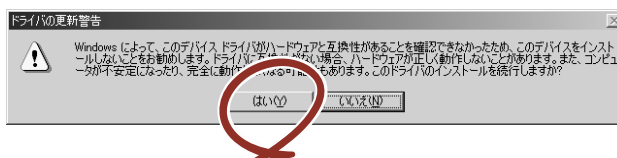
(2) [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し、[デバイスマネージャ]をクリックする。

(3) [キーボード]をクリックし、以下のプロパティを開く。
101/102英語キーボードまたは、Microsoft Natural PS/2キーボード

(4) [ドライバ]タブの[ドライバの更新]をクリックし、[このデバイスの既知のドライバを表示してその一覧から選択する]を選択する。

(5) 「このデバイス クラスのハードウェアをすべて表示」を選択し、日本語 PS/2キーボード（106/109キー）を選択して[次へ] をクリックする。

(6) ウィザードに従ってドライバを更新してコンピュータを再起動する。

(7) 以下のメッセージが表示された場合は、［はい］をクリックして操作を続行する。

[?] Windowsの動作が不安定

□ システムのアップデートを行いましたか？

→ OSをインストールした後にネットワークドライバをインストールすると動作が不安定になることがあります。110ページを参照してシステムをアップデートしてください。

[?] STOPエラーが発生した時、「自動的に再起動する」の設定で、設定どおりに動作しない

→ 障害発生時に「自動的に再起動する」の設定にかかわらず、自動的に再起動する場合や再起動しない場合があります。再起動しない場合は、手動で再起動してください。また、この現象発生時に画面に青い縦線が入るなど、画面が乱れる場合があります。

[?] ブルー画面（STOPエラー画面）で電源OFFができない

→ ブルー画面で電源をOFFにする時は、強制電源OFF(POWERスイッチを4秒間押し続ける)を行ってください。一度押しでは電源はOFFになりません。

[?] バックアップツールからシステムをリストア後、動作がおかしい

→ EXPRESSBUILDERを使ってシステムをアップデートしてください（110ページ参照）。

【?】 Telnetサービスがインストールされていない

→ コンピュータ名を14文字以下にして、<Telnetサービスのインストール手順>に従ってTelnetサービスをインストールしてください。

<Telnetサービスのインストール手順>

(1) スタートメニューから[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

(2) [名前]ボックスに「tlntsvr /service」と入力し、[OK]をクリックする。

(3) スタートメニューから[コントロールパネル]-[管理ツール]-[サービス]を開き、サービスの一覧にTelnetサービスが登録されていることを確認する。

* Telnetサービスのインストール後は、コンピュータ名を15文字以上に設定しても問題ありません。

【?】 /3GBスイッチ使用時、OSが起動しない

→ /3GBスイッチ使用時、OSが起動しなくなる場合があります。
その場合は以下のURLを参照し、/uservaスイッチを使用してユーザーモードの領域を適切な値に調整してください。

http://support.microsoft.com/kb/316739/ja

【?】 システム時刻がずれる

→ Windows Server 2008 において、NTP(Network Time Protocol)サーバなど時刻を調整するサーバを利用しない場合、実時刻に対してシステム時刻がずれることがあります。この場合は、NTPサーバを利用するか、Windows Timeサービスを無効に設定してください。

EXPRESSBUILDERについて

EXPRESSBUILDERから起動できない場合は、次の点について確認してください。

□ POSTの実行中に「EXPRESSBUILDER」DVDをセットし、再起動しましたか？

→ POSTを実行中に「EXPRESSBUILDER」DVDをセットし、再起動しないとエラーメッセージが表示されたり、OSが起動したりします。

□ BIOSのセットアップを間違えていませんか？

→ BIOSセットアップユーティリティでブートデバイスの起動順序を設定することができます。BIOSセットアップユーティリティで光ディスクドライブが最初に起動するよう順序を変更してください。
<確認するメニュー：「Boot」>

□ 未フォーマット状態のFlash FDD、又はFDを接続していませんか？

→ 接続されているFlash FDD、又はFDがWindowsからフォーマット済みと認識されることを確認してください。未フォーマット状態の場合はフォーマットしてください。

□ Boot selection画面で『Os installation***default***』を選択した場合に以下のようなメッセージが表示されます。
メッセージを記録して保守サービス会社に連絡してください。

メッセージ	原因
EXPRESSBUILDER は、このコンピュータを動作対象としていません。正しいバージョンをセットして「OK」ボタンを押してください。 （「OK」ボタンを押すと再起動します）	EXPRESSBUILDER の対象マシンではありません。 対象マシンで実行してください。
マザーボード上のハードウェアに関する情報を取得できませんでした。対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。 （「OK」ボタンを押すと再起動します）	マザーボード交換時など、EXPRESSBUILDER が装置固有情報を見つけられない場合に表示されます。
マザーボード上のハードウェアに関する情報が不正です。 対象外の機種、またはマザーボードが故障している可能性があります。 （マザーボード交換直後にこのエラーが出たときは、「Maintenance Utility」を使ってハードウェアの情報を正しく設定してください）。	

□ Windows用OEM-Disk が作成できない場合、以下のようなメッセージが表示されます。
メッセージの内容を確認して、原因にある対処を行ってください。

メッセージ	原因
フォーマットに失敗しました。書き込み禁止になっているか、フロッピーディスクが破損している可能性があります。 フロッピーディスクを確認し、再度OEM-Disk の作成を実行してください。	Flash FDD もしくはフロッピーディスクが書き込み禁止になっています。 書き込み禁止を解除してください。 フロッピーディスクをご使用の場合で、書き込み禁止になっていない場合、フロッピーディスクドライブを接続しなおしてください。
ファイルの削除に失敗しました。 書き込み禁止になっていないかなど、メディアの状態を確認してください。	

シームレスセットアップについて

<Windows>

【?】 ドメインに参加するように設定したのに、ワークグループでインストールされている

→ LANケーブルが接続されていなかった場合、ドメイン参加設定ではなく、ワークグループ設定でインストールされます。OS起動後に、ドメイン参加を行ってください。

【?】 シームレスセットアップ中、外付けハードディスクドライブの中身が消去された

□ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを接続していませんか？

→ OSをインストールするハードディスクドライブ以外のハードディスクドライブを取り外し、シームレスセットアップを行ってください。

【?】 ネットワークの接続名が『Local Area Connection』になっている

→ シームレスセットアップの仕様です。
ネットワーク接続名を変更する場合は、シームレスセットアップ完了後に実施してください。

【?】 HDDの先頭に未使用領域がある

□ インストールしたOSはWindows Server 2003ですか？

→ Windows Server 2003 でシームレスセットアップを実行した場合、HDDの先頭8MBが未使用領域となる場合がありますが、システム運用上、問題ありません。

【?】 プロダクトキーを入力するタイミングがない

□ Windows Server 2008 の場合

→ バックアップDVD-ROMを使用してインストールする場合、プロダクトキーの入力は必要ありません。バックアップDVD-ROM以外のOS DVD-ROMを使用している場合は、プロダクトキーの入力画面が、“OSセットアップ中”および“OSインストール後に表示される[マイクロソフトソフトウェアライセンス条項]前”に2回表示されますのでメッセージに従ってプロダクトキーを入力してください。

□ Windows Server 2003 の場合

→ バックアップCD-ROMを使用してインストールする場合、プロダクトキーの入力は必要ありません。バックアップCD-ROM以外のOS CD-ROMを使用している場合は、プロダクトキーの入力画面がOSセットアップ中に表示されますのでメッセージに従ってプロダクトキーを入力してください。

[?]　Windows Server 2008をシームレスセットアップでIISをインストールした場合、以下の機能がインストールされている

□　Windows プロセスアクティブ化サービス

- プロセスモデル
- 構成API

□　リモートサーバ管理ツール

- 役割管理ツール
- Webサーバ(IIS)ツール

→　IISの基本機能をインストールする場合は、上記の機能をインストールする必要があるため、有効になります。

<Linux>

[?]　シームレスセットアップの[ディストリビューションの指定]画面でRed Hat Entperprise Linux 6 Server を選択できない。

→　Red Hat Entperprise Linux 6 Serverは、シームレスセットアップに対応していません。本書の「マニュアルセットアップ」を参照してください。

[?]　シームレスセットアップ・インストールキーが、どこに記載されているか見つからない

→　Linuxサービスセット同梱の「はじめにお読みください」に記載されています。

[?]　「Red Hat Enterprise Linux 5 Server」、「Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4」のインストールディスク(「Red Hat Enterprise Linux 5.4 Server (x86) Install Disc 1～5」など)がLinuxサービスセットの中に見つからない

→　BTO(工場組み込み出荷)時には、インストールディスクがISOイメージとしてLinux Recoveryパーティションに格納されています。シームレスセットアップで「ハードディスクからのインストール」を選択し再インストールする場合は、格納されているISOイメージを使用するため、インストールディスクの作成の手間が省けます。
インストールディスクの入手方法は、「Red Hat Enterprise Linux 5 Serverインストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。
「Linuxメディアキット」を購入されたお客様は、インストールディスクが同梱されていますので、そちらをご利用ください。

[?]　BTO(工場組み込み出荷)時のハードディスクに不明なパーティション(タイプvfat)が確保されている

→　LinuxをBTO(工場組み込み出荷)で購入された場合、Linuxの再インストール用にLinux Recovery パーティション(約5GB)が確保されています。
Linux Recoveryパーティションには、再インストールに必要なインストールディスクのISOイメージやドライバ、アプリケーションなどが格納されています。
システム運用時にLinux Recoveryパーティションが必要ない場合、Linux Recoveryパーティションを削除することができます。再インストール時に必要になった場合には、「EXPRESSBUILDER」DVDからLinux Recoveryパーティションを作成することができます。なお、Linux Recoveryパーティションを作成するにはインストールディスクが必要です。

【?】 既存のLinuxのパーティションを残したままシームレスセットアップできない

→ シームレスセットアップでは、再インストールを対象にしています。そのため、既存のLinuxパーティションを残したまま再インストールはできません。必要なデータをバックアップし、シームレスセットアップを行ってください。

【?】 BTO(工場組み込み出荷)時以外のパーティション構成でシームレスセットアップできない

→ シームレスセットアップでは、パーティションレイアウトとして「BTO(工場組み込み出荷)時パターン1〜3」および「手動で設定する」を選択することができます。
シームレスセットアップ時にBTO(工場組み込み出荷)時以外のパーティション構成でインストールするには、STEP7(148ページの手順12を参照)の[パーティション・パッケージの設定]画面で「手動で設定する」を選択してください。その後、画面の指示に従い操作を行い、インストール開始後表示されるLinuxの標準インストーラのパーティション設定画面(テキストモード)でパーティションを設定してください。

【?】 Linux Recoveryパーティションをインストール時に削除できない

→ シームレスセットアップのSTEP6(147ページの手順11を参照)の[インストール方法の選択]画面で「CD/DVDからのインストール」を選択するか、マニュアルセットアップでインストールしてください。

【?】 シームレスセットアップ時にインストールされるパッケージを知りたい

→ シームレスセットアップでは、BTO(工場組み込み出荷)時と同じパッケージ構成でインストールされます。
BTO(工場組み込み出荷)時にインストールされるパッケージは、「Red Hat Enterprise Linux 5 Server インストレーションサプリメントガイド」または「Red Hat Enterprise Linux 4 インストレーションサプリメントガイド」を参照してください。
またはパッケージの選択画面(148ページの手順12を参照)で「こちら」をクリックすると、BTO(工場組み込み出荷)時のパッケージ一覧が表示されます。

【?】 シームレスセットアップで[実行する]ボタンをクリックし、再起動画面で再起動するとLinux標準インストーラが起動し言語やキーボード設定を求められる

→ インストールディスクの1枚目を挿入したまま再起動したためです。シームレスセットアップの[実行する]ボタンをクリック後、最初の再起動時にはすべてのCD/DVDおよびフロッピーディスク/Flash FDDを取り出して再起動してください。
すべてのCD/DVDおよびフロッピーディスク/Flash FDDを取り出して再起動しても、言語やキーボードの設定画面になる場合は、「セットアップ前の確認事項について」(141ページ)を参照し、シームレスセットアップが可能なハードウェア構成になっているかを確認してください。

[?] シームレスセットアップで[実行する]ボタンをクリックし、再起動画面で再起動するとLinux標準インストーラが起動しない

→ 「EXPESSBUILDER」DVDまたはフロッピーディスク/Flash FDDが挿入されたまま再起動された可能性があります。シームレスセットアップの[実行する]ボタンをクリック後、最初の再起動時にはすべてのCD/DVDおよびフロッピーディスク/Flash FDDを取り出して再起動してください。
すべてのCD/DVDおよびフロッピーディスク/Flash FDDを取り出して再起動しても、Linux標準インストーラが起動しない場合、オプションボードなどにハードディスクが接続され、ブートするハードディスクがBTO(工場組み込み出荷)時と異なる可能性があります。
BTO(工場組み込み出荷)時と同じ構成に戻し、再度シームレスセットアップを行ってください。

[?] シームレスセットアップでインストール時に、「Do you have a driver disk?」というメッセージが表示される

→ Linux用ドライバディスクを要求するメッセージです。事前にLinux用ドライバディスクを用意し、上記メッセージが表示された場合Linux用ドライバディスクを挿入しインストールを継続してください。
「EXPRESSBUILDER」のトップメニューの「Linux用ドライバディスクを作成する」で作成するか、シームレスセットアップ中にLinux用ドライバディスクを作成することができます。または、「オートランで起動するメニュー」(336ページ)から作成することもできます。

[?] シームレスセットアップでインストール後、次のような現象が発生する。
1.X Window Systemが起動しない(startxコマンドが異常終了する)。
2.コンソール端末に表示されるメッセージが文字化けする。
3.X Window Systemは起動するが、キーボード設定が英字配列になっている。
4.ネットワーク設定が行われていない

→ Linuxサービスセットに添付される「初期設定および関連情報について」を参照し、Linuxの初期導入設定を行ってください。

[?] フロッピーディスクドライブまたは、Flash FDDの指定で“sda”を選択したが、エラーメッセージが表示される

→ OSが認識するフロッピーディスクドライブまたは、Flash FDDのデバイス名が“sda”と異なっている可能性があります。他のデバイス(通常はリストの一番最後のデバイス名)を選択してください。

[?] オプションのLANボードを増設して「Red Hat Enterprise Linux 5 Server」、「Red Hat Enterprise Linux AS/ES 4」をインストールすると、本体装置のLANコネクタにケーブルを接続しeth0、eth1を有効にしてもネットワーク接続ができない

→ オプションのLANボードを増設した場合、本体装置のLANボードに付与されるデバイス名が変更される場合があります。本体装置のLANコネクタのデバイス名が変更されている場合、ケーブルの差し替え、またはネットワークの設定変更を行い、ネットワーク接続できることを確認してください

【?】 インストール完了画面でシステムを再起動した時、「install exited abnormally -- received signal11」というメッセージが表示され、システムが再起動できない

→ 本体装置の構成により、インストール完了後の再起動時にエラーが発生し、システムの再起動に失敗しています。
OSのインストールは正常に完了しているので、問題はありません。リセット(<Ctrl>+<Alt>+<Delete>キーを押す)または電源をOFF/ONし、本体装置を再起動してください。

オートランで起動するメニューについて

[?] オンラインドキュメントが読めない

□ Adobe Readerが正しくインストールされていますか？

→ オンラインドキュメントの文書の一部は、PDFファイル形式で提供されています。あらかじめAdobe Readerをインストールしておいてください。

□ 使用しているOSは、Windows XP SP2ですか？

→ SP2にてオンラインドキュメントを表示しようとすると、ブラウザ上に以下のような情報バーが表示されることがあります。

「セキュリティ保護のため、コンピュータにアクセスできるアクティブコンテンツは表示されないよう、Internet Explorerで制限されています。オプションを表示するには、ここをクリックしてください...」

この場合、以下の手順にてドキュメントを表示させてください。

(1) 情報バーをクリックする。

ショートカットメニューが現れます。

(2) ショートカットメニューから、「ブロックされているコンテンツを許可」を選択する。

「セキュリティの警告」ダイアログボックスが表示されます。

(3) ダイアログボックスにて「はい」を選択。

[?] メニューが表示されない

□ ご使用のOSは、Windows XP以降、またはWindows 2003以降ですか？

→ 本プログラムは、Windows XP以降またはWindows 2003以降のオペレーティングシステムにて動作させてください。

→ Windows 2000の場合は、あらかじめIE6.0をインストールしてください。

→ Windows Server 2008 Server Coreインストール環境には対応していません。

□ <Shift>キーを押していませんか？

→ <Shift>キーを押しながらディスクをセットすると、オートラン機能がキャンセルされます。

□ OSの状態は問題ありませんか？

→ レジストリ設定やディスクをセットするタイミングによっては、メニューが起動しない場合があります。そのような場合は、エクスプローラから「マイコンピュータ」を選択し、セットしたDVDドライブのアイコンをダブルクリックしてください。

[?] メニュー項目がグレイアウトされている

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ 実行するソフトウェアによっては、管理者権限が必要だったり、本装置上で動作することが必要だったりします。適切な環境にて実行するようにしてください。

【?】 メニューが英語で表示される

□ ご使用の環境は正しいですか？

→ オペレーティングシステムが英語バージョンの場合、メニューは英語で表示されます。日本語メニューを起動させたい場合は、日本語バージョンのオペレーティングシステムにて動作させてください。

ExpressPicnicについて

【?】 ExpressPicnicが起動できない

→ ExpressPicnic は、「Microsoft® HTML Application host」で実行する必要があります。起動しない場合は、下記の手順で 「Microsoft® HTML Application host」の関連付けを行ってください。

（1） Windowsのスタートメニューから[ファイル名を指定して実行]を選択する。

（2） %windir%¥system32¥mshta.exe /register と入力する。

ESMPROについて

ESMPRO/ServerAgent（Windows版）について

→ 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent（Windows版）インストレーションガイド」でトラブルの回避法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

ESMPRO/ServerAgent（Linux版）について

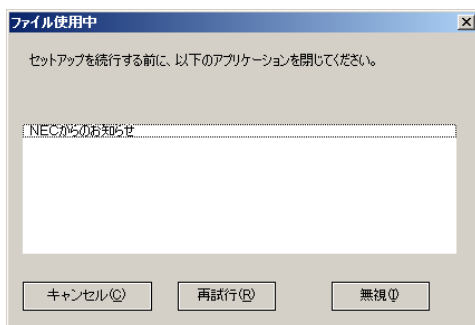
→ 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerAgent(Linux版)ユーザーズガイド」、「ESMPRO/ServerAgent（Linux版）インストレーションガイド」で詳しい使い方やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

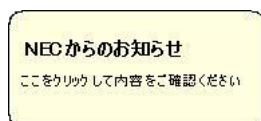
ESMPRO/ServerManagerについて

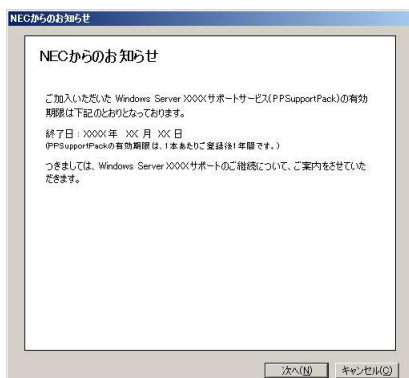
→ 添付の「EXPRESSBUILDER」DVD内のオンラインドキュメント「ESMPRO/ServerManagerインストレーションガイド」でトラブルの回避法やその他の補足説明が記載されています。参照してください。

情報提供ツール「NECからのお知らせ」

[?] .NET Framework Version 2.0 以降のインストール時に、情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させる旨のメッセージが表示される

→　情報提供ツール「NECからのお知らせ」をインストールしている環境で.NET Framework Version 2.0 以降をインストールする場合、事前に情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させる必要があります。情報提供ツール「NECからのお知らせ」を終了させた後、改めて.NET Frameworkのインストールを開始してください。.NET Framework インストール終了後、情報提供ツール「NECからのお知らせ」を起動させてください。修復・削除時も同様です。

【情報提供ツール「NECからのお知らせ」終了手順】

(1)　デスクトップに表示されている次の画面をクリックする。

(2)　次の画面が表示されたら［キャンセル］をクリックする。

以下のメッセージが表示される場合がありますが、[キャンセル]をクリックしてください。

(3) 次の画面が表示されたら［いいえ］をクリックする。

画面右下のタスクトレイに情報提供ツール「NECからのお知らせ」のアイコンのみ表示されている場合は、アイコンをクリックして手順2、手順3を実施してください。

以上で、【情報提供ツール「NECからのお知らせ」終了手順】は完了です。

.NET Framework Version 2.0以降のインストール後や修正・削除後、スタートメニューから［プログラム］をポイントし、[NECからのお知らせ］から［NECからのお知らせ］をクリックし、再度情報提供ツール「NECからのお知らせ」の実行、設定を実施してください。

RAIDシステム、RAIDコントローラについて

RAIDシステムを構成している本体装置がうまく動作しないときや、管理ユーティリティが正しく機能しないときは次の点について確認してください。また、該当する項目があったときは、処理方法にしたがった操作をしてください。

[?] OSをインストールできない

□ RAIDコントローラのコンフィグレーションを行いましたか?

→ RAIDコンフィグレーションユーティリティ(Universal RAID Utilitや SuperBuild Utility)を使って正しくコンフィグレーションしてください。

□ バーチャルディスクを作成しましたか?

→ Universal RAID UtilitやSuperBuild Utilityを使ってバーチャルディスクを作成してください。

[?] OSを起動できない

□ RAIDコントローラのBIOS設定が変更されていませんか?

→ WebBIOSを使って正しく設定してください。

□ POSTでRAIDコントローラを認識していますか?

→ RAIDコントローラが正しく接続されていることを認識してから電源をonにしてください。

→ 正しく接続していても認識されない場合は、RAIDコントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

□ RAIDコントローラがまっすぐ奥までPCIスロットに実装されていますか?

→ 正しく実装してください。

□ RAIDコントローラを実装制限があるPCIスロットに実装していませんか?

→ 本体装置の実装制限を確認後、正しいスロットに実装してください。

上記の処置を実施しても認識されない場合は、RAIDコントローラの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

□ ハードディスクドライブが奥まで、しっかり実装されていますか?

→ 正しく実装してください。

□ SASケーブルが正しく接続されていますか?(本製品との接続, ハードディスクドライブとの接続, 増設用HDDケージとの接続)

→ 正しく接続してください。

上記の処置を実施しても認識されない場合は、ハードディスクドライブの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

【?】 リビルドができない

□ リビルドするハードディスクドライブの容量が少なくありませんか？

→ 故障したハードディスクドライブと同じか、もしくは大きい容量のハードディスクドライブを使用してください。

□ 論理ドライブが、RAID0ではありませんか？

→ RAID0には冗長性がないため、リビルドはできません。FAILになったハードディスクドライブを交換して、再度コンフィグレーション情報を作成し、イニシャライズを行ってからバックアップデータを使用して復旧してください。

【?】 オートリビルドができない

□ ハードディスクドライブを交換（ホットスワップ）するときに十分な時間をあけましたか？

→ オートリビルドを機能させるためには、ハードディスクドライブを取り出してから取り付けるまでの間に90秒以上の時間をあけてください。

【?】 ハードディスクドライブがFailになった

→ 契約されている保守サービス会社または購入された販売店へ連絡してください。

【?】 ハードディスクドライブが故障した

→ 契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

【?】 整合性チェックが実行できない

□ バーチャルディスクが「Degraded」になっていませんか？

→ 故障しているハードディスクドライブを交換し、リビルドを実施してください。

□ バーチャルディスクのRAIDレベルが、RAID0ではありませんか？

→ RAID0 は冗長性がないため整合性チェックができません。

【?】 キャッシュモードをライトバックに設定できない

→ Web BIOSのVirtual Disks－Properties画面のPolicies欄の『Write』は、RAIDコントローラのキャッシュモード(現在値)を表示します。そのため、増設バッテリが接続されていない構成や、増設バッテリが異常な場合、充電が十分ではない場合は、『WBack (Write Back) 』に設定しても、すぐに『WThru (Write Through) 』に表示が切り替わります。
キャッシュモードについての説明は、2 ハードウェア編のRAIDシステムのコンフィグレーションの章を参照してください。

[?] N8103-124やN8103-136、N8103-137増設バッテリが認識されない、または POSTにて下記のメッセージが表示される

```
The battery hardware is missing or malfunctioning, or the battery is
unplugged, or the battery could be fully discharged. If you continue to
boot the system, the battery-backed cache will not function.
If battery is connected and has been allowed to charge for 30 minutes
and this message continues to appear, then contact technical support for
assistance.
Press 'D' to disable this warning (if your controller does not have a battery).
```

□ バッテリパックとバッテリボードを接続するケーブル、バッテリボードおよびバッテリコネクタとバッテリ制御ケーブル、それぞれが正しく接続されていますか？

→ 正しく接続してください。

□ バッテリを接続した直後ではありませんか？

→ バッテリの充電状態が低い場合に、バッテリが認識できない場合があります。24時間経過しても認識しない場合は一度システムを再起動してください。

上記の処置を実施しても認識されない場合は、増設バッテリの故障が考えられます。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。

[?] イベントID129について 以下のメッセージがWindowsのイベントログに登録される。

イベントソース： msas2k3
イベントID： 129
種類： 警告
説明： イベントID(129)（ソース:msas2k3内）に関する説明が見つかりませんでした。
（以降省略）

→ 本メッセージがログに登録されても、OSでリトライに成功しているため問題はありません。そのままご使用ください。

【?】 イベントID505について
N8103-124やN8103-136、N8103-137増設バッテリを搭載している場合、Universal RAID UtilityのRAIDログ、およびOSログ(Windowsのイベントログ、Linuxのsyslog)に以下のメッセージが登録される場合があります。

イベントソース：　raidsrv
イベントID：　505
種類：　警告
説明：　<RU0505>［CTRL: RAIDコントローラ番号］バッテリの温度が高くなりました。

上記のイベントが登録された場合は、Universal RAID UtilityよりRAIDコントローラのキャッシュモード(現在値)を確認してください。

→ キャッシュモード(現在値)が『Write Back』の場合は、問題はありませんのでそのままご使用ください。

→ キャッシュモード(現在値)が『Write Through』の場合は、バッテリのリフレッシュ動作により一時的にバッテリの温度が上昇しています。本イベントにより、リフレッシュ動作は一時停止しますので温度が下がり、リフレッシュ動作を再開しますが、温度が下がるまでに時間が掛かる場合があります。リフレッシュ動作の完了後、キャッシュモード(現在値)が『Write Back』に変わります。もし、24時間経過しても『Write Back』に変わらない場合は、バッテリの不良が考えられます。バッテリを交換してください。

【?】 イベントID508について
N8103-124 増設バッテリ搭載時に、Universal RAID UtilityのRAIDログ、およびOSログ(Windowsのイベントログ、Linuxのsyslog)に以下のメッセージが登録される。

イベントソース：　raidsrv
イベントID：　508（800001FC）
種類：　警告
説明：　<RU0508>［CTRL: RAIDコントローラ番号］バッテリの状態が不安定です。

□ 本メッセージが登録された場合は、15分ほど経過してからRAIDコントローラのキャッシュモード(現在値)を確認してください。もしキャッシュモード（現在値）が『Write Back』であれば問題ありませんのでそのままご使用ください。
キャッシュモード(現在値)が『Write Through』の場合は、バッテリのリフレッシュ動作が必要となります。契約されている保守サービス会社、または購入された販売店へ連絡してください。なお、実施のためのツールならびに手順書は弊社Webサイトの以下のページにあります。

［PCサーバ　サポート情報］　http://support.express.nec.co.jp/pcserver/

□ なお、本ツールはあくまでもバッテリのリフレッシュ動作のみにご使用ください。リフレッシュ動作開始から約9時間後を目処に、まだ『Write Back』に切り替わらない場合にはバッテリの不良が考えられます。

□ バッテリを増設した直後ではありませんか？

→ バッテリ増設直後はバッテリのリフレッシュ動作が完了するまで、本イベントが登録される場合があります。

[?] アクセスLEDが点滅する

□ 使用していないのに、頻繁にアクセスLEDが点滅する。

→ パトロールリードが動作した場合、特に使用していない状態でもアクセスLEDが点滅します。なお、SATAのハードディスクドライブを使用している場合、LEDが点灯状態となる場合があります。

N8190-127/131/153/154 FibreChannelコントローラについて

[?] N8190-127/131/153/154 FibreChannel をご使用の場合、デバイスマネージャでのコントローラ名がコントローラごとに異なって表示される場合がある

→ Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008でN8190-127/131/153/154をご使用の場合、デバイスマネージャでのコントローラ名がコントローラごとに異なって表示される場合がありますが、動作上、問題はありません。
また、EXPRESSBUILDERに格納されている、以下のファイルを実行し再起動することで正しいコントローラ名が表示されます。

[Windows Server 2008 R2/Windows Server 2008 x64 Edition/
Windows Server 2008 共通]

<光ディスクのドライブレター >:
¥017¥win¥winnt¥ws2008x64¥elxstor¥friendlyname.exe:

障害情報の採取

万一障害が起きた場合、次の方法でさまざまな障害発生時の情報を採取することができます。

重要

- **以降で説明する障害情報の採取については、保守サービス会社の保守員から情報採取の依頼があったときのみ採取してください。**
- **障害発生後に再起動されたとき、仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示されることがありますが、そのままシステムを起動してください。途中でリセットし、もう一度起動すると、障害情報が正しく採取できません。**

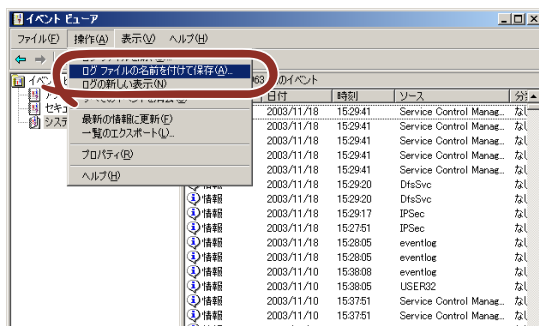
イベントログの採取

装置に起きたさまざまな事象（イベント）のログを採取します。

STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

1. コントロールパネルから［管理ツール］－［イベントビューア］をクリックする。
2. 採取するログの種類を選択する。

   ［アプリケーション ログ］には起動していたアプリケーションに関連するイベントが　記録されています。［セキュリティ ログ］にはセキュリティに関連するイベントが記録されています。［システム ログ］にはWindowsのシステム構成要素で発生したイベントが記録されています。

3. ［操作］メニューの［ログファイルの名前を付けて保存］コマンドをクリックする。

4. ［ファイル名］ボックスに保存するアーカイブログファイルの名前を入力する。
5. ［ファイルの種類］リストボックスで保存するログファイルの形式を選択し、［OK］をクリックする。

詳細についてはWindowsのオンラインヘルプを参照してください。

構成情報の採取（Windows Server 2003の場合）

ハードウェア構成や内部設定情報などを採取します。
情報の採取には「診断プログラム」を使用します。

重要
STOPエラーやシステムエラー、ストールが起きている場合はいったん再起動してから作業を始めます。

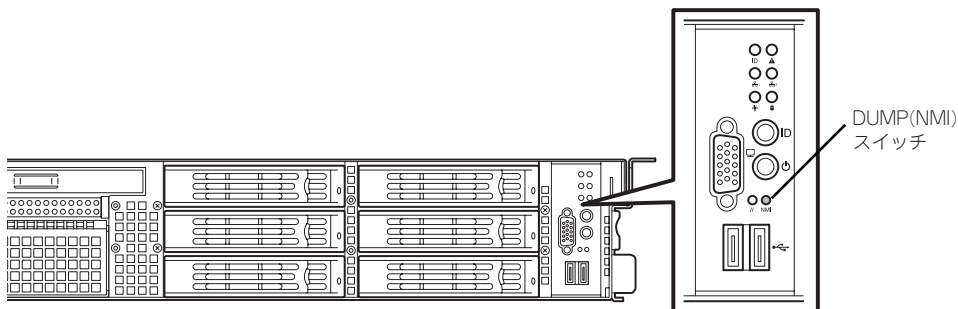
1. スタートメニューから［ヘルプとサポート］をクリックする。
2. ツールバーから[サポート]をクリックする。
3. [関連項目]から[システムの詳細情報]をクリックする。
4. ［システムの詳細情報を表示する］をクリックする。
5. [ファイル]メニューの[エクスポート]コマンドをクリックする。
6. ［ファイル名］ボックスに保存するファイルの名前を入力する。
7. ［保存］をクリックする。

ユーザーモードプロセスダンプ（ワトソン博士の診断情報）の採取

アプリケーションエラーに関連する診断情報を採取します。
詳しくは「導入編」の「ユーザーモードプロセスダンプの取得方法」（125ページ）を参照してください。

メモリダンプの採取

障害が起きたときのメモリの内容をダンプし、採取します。ダンプをDATに保存した場合は、ラベルに「NTBackup」で保存したか「ARCServe」で保存したかを記載しておいてください。診断情報の保存先は任意で設定できます。詳しくは「メモリダンプ（デバッグ情報）の設定」（Windows Server 2003は111ページ）を参照してください。

重要

- 保守サービス会社の保守員と相談した上で採取してください。正常に動作しているときに操作するとシステムの運用に支障をきたすおそれがあります。
- 障害の発生後に再起動したときに仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。途中でリセットして起動し直すと、データを正しくダンプできない場合があります。

システムの修復

−Windows Server 2008 R2, Windows Server 2008の場合−

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、システム回復オプションを使用してシステムの修復を行うことができます。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者のもと実施してください。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

−Windows Server 2003 x64 Editions, Windows Server 2003の場合−

何らかの原因でシステムを起動できなくなった場合は、回復コンソールを使用してシステムの修復を行います。ただし、この方法は詳しい知識のあるユーザーや管理者以外にはお勧めできません。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

重要

- **システムの修復後、必ずシステムをアップデートしてください。また、Windowsの場合は、システムのアップデートに加え、各種ドライバをアップデートしてください。詳しくは「EXPRESSBUILDER」DVDに格納されている各OSのインストレーションサプリメントガイドの「システムのアップデート」、「ドライバのインストールと詳細設定」を参照してください。**
- **ハードディスクドライブが認識できない場合は、システムの修復はできません。**

保守ツール

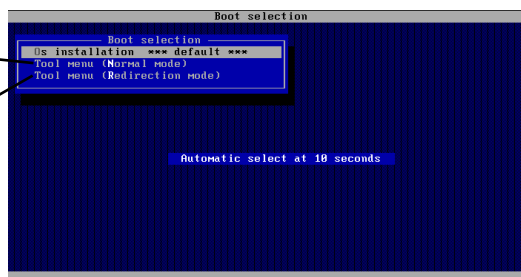
保守ツールは、本製品の予防保守、障害解析を行うためのツールです。

本書内の説明、および各種ツールのメッセージにおいてフロッピーディスクに関する記述がありますが、本製品はフロッピーディスクドライブを内蔵していません。
オプションのFlash FDDを使用するか、USB FDDをお持ちの方はUSB FDDを使用してください。

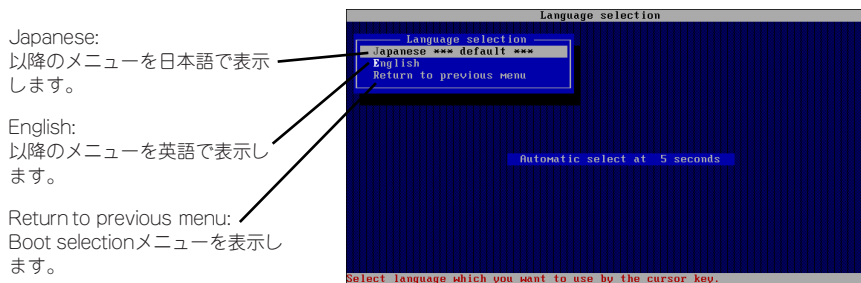
保守ツールの起動方法

次の手順に従って保守ツールを起動します。

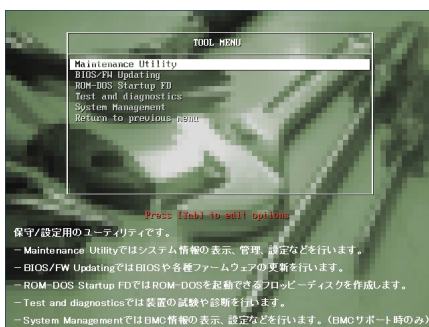
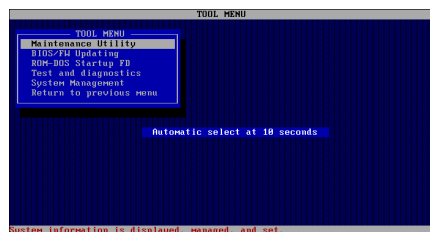
1. 周辺装置、本装置の順に電源をONにする。
2. 本装置に接続した光ディスクドライブに「EXPRESSBUILDER」DVDをセットする。
3. EXPRESSBUILDERが起動しなかった場合は、本装置を再起動する。

   DVDから以下のようなメニューが起動します。

メニューの初期選択は「Os installation」となっています。
Boot selectionメニュー表示後、10秒間操作が行われない場合は、「Os installation」が自動で起動します。

4. ローカルコンソールを使用する場合には「Tool menu(Normal mode)」を、コンソールレスで使用する場合には「Tool menu(Redirection mode)」を選択する。(コンソールレスについてはこの後の「コンソールレス」を参照してください。)

以下に示すLanguage selection メニューを表示します。

メニューの初期選択は「Japanese」となっています。
Language selection メニュー表示後、5 秒間操作が行われない場合は、「Japanese」が自動で起動します。

5. 「Japanese」を選択する。

「Japanese」を選択すると次のツールメニューを表示します。

ローカルコンソールを使用した場合

コンソールレスの場合

6. 各ツールを選択し、起動する。

保守ツールの機能

保守ツールでは以下の機能を実行できます。

- **Maintenance Utility**

  Maintenance Utilityではオフライン保守ユーティリティを起動します。オフライン保守ユーティリティは、本製品の予防保守、障害解析を行うためのユーティリティです。ESMPROが起動できないような障害が本製品に起きた場合は、オフライン保守ユーティリティを使って障害原因の確認ができます。

オフライン保守ユーティリティは通常、保守員が使用するプログラムです。オフライン保守ユーティリティを起動するとメニュー中にヘルプ（機能や操作方法を示す説明）がありますが、無理な操作をせずにオフライン保守ユーティリティの操作を熟知している保守サービス会社に連絡して、保守員の指示に従って操作してください。

オフライン保守ユーティリティを起動すると、以下の機能を実行できます。

- IPMI情報の表示

  IPMI(Intelligent Platform Management Interface)におけるシステムイベントログ(SEL)、センサ装置情報(SDR)、保守交換部品情報(FRU)の表示やIPMI情報のバックアップをします。

  本機能により、本製品で起こった障害や各種イベントを調査し、交換部品を特定することができます。

- BIOSセットアップ情報の表示

  BIOSの現在の設定値をテキストファイルへ出力します。

- システム情報の表示

  プロセッサ(CPU)やBIOSなどに関する情報を表示したり、テキストファイルへ出力したりします。

- システム情報の管理

  お客様の装置固有情報や設定のバックアップ（退避）をします。バックアップを行うことで、ボードの修理や交換の際に装置固有情報や設定を復旧できます。

システム情報のバックアップ方法については、130ページで説明しています。なお、リストア（復旧）は操作を熟知した保守員以外は行わないでください。

- システムマネージメント機能

  BMC(Baseboard Management Controller)による通報機能や管理PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。

- **BIOS/FW Updating**

弊社Webサイトの以下のページで配布される各種BIOS/FW（ファームウェア）のアップデートを使用して、本装置のBIOS/FW（ファームウェア）をアップデートすることができます。

［PCサーバ　サポート情報］　http//support.express.nec.co.jp/pcserver/

各種BIOS/FWのアップデートを行う手順は、配布される「各種BIOS/FWのアップデートモジュール」に含まれる「README.TXT」に記載されています。記載内容に従ってアップデートを行ってください。「README.TXT」はWindowsのメモ帳などで読むことができます。

BIOS/FWのアップデートプログラムの動作中は本体の電源をOFFにしないでください。アップデート作業が途中で中断されるとシステムが起動できなくなります。

- **ROM-DOS　Startup FD**

ROM-DOSシステムの起動用サポートディスクを作成します。

- **Test and diagnostics**

Test and diagnostics（システム診断）では本体上で各種テストを実行し、本体の機能および本体と拡張ボードなどとの接続を検査します。システム診断を実行すると、本体に応じてシステムチェック用プログラムが起動します。369ページを参照してシステムチェック用プログラムを操作してください。

- **System Management**

BMC（Baseboard Management Controller）による通報機能や管理PCからのリモート制御機能を使用するための設定を行います。
このメニューから起動する機能はMaintenance Utilityのシステムマネージメント機能から起動するものと同じです。

コンソールレス

保守ツールは、本体にキーボードなどのコンソールが接続されていなくても各種セットアップを管理用コンピュータ（管理PC）から遠隔操作することができる「コンソールレス」機能を持っています。

重要

- 本装置以外のコンピュータおよび他のExpress5800シリーズに使用しないでください。故障の原因となります。
- コンソールレスでは、「Boot selection」メニュー中の「Tool menu(Redirection mode)」を選択して下さい。その他を選択しても管理PCには表示しません。

起動方法

次の2通りの方法があります。

- LAN接続された管理PCから実行する
- ダイレクト接続（COM B）された管理PCから実行する

起動方法の手順については、「ESMPRO/ServerManager」オンラインドキュメントを参照してください。

- BIOSセットアップユーティリティのBootメニューで起動順序を変えないでください。光ディスクドライブが最初に起動するようになっていないと使用できません。
- LAN接続はマネージメント専用LANコネクタ、またはShared BMC LAN機能使用時はLANコネクタ1のみ使用可能です。
- ダイレクト接続はシリアルポートBのみ使用可能です。
- コンソールレスで本装置を遠隔操作するためには、操作する管理PCとの通信方法や詳細な設定を保存した「設定情報ファイル」を格納したフロッピーディスクを必ずFDドライブに挿入しておく必要があります。「設定情報ファイル」はツールメニューのシステムマネージメント機能や、ESMPRO/BMC ConfigurationまたはESMPRO/ServerAgent Extensionで作成することができます。「設定情報ファイル」はフロッピーディスクのルートディレクトリに必ず以下のファイル名で作成してください。

  <設定情報ファイル名>: CSL_LESS.CFG
- BIOSセットアップユーティリティを通常の終了方法以外の手段（電源OFFやリセット）で終了するとリダイレクションが正常にできない場合があります。設定ファイルで再度設定を行ってください。
- Windows Server 2008でCOMのダイレクト接続を行う場合は、デバイスマネージャでCOMポートを「無効」に設定して、リブートを実行してください。

BIOS設定情報は以下の値にセットされます。

- LAN Controller:［Enabled］
- Serial Port A:［Enabled］
- Serial Port A I/O Address:［3F8］
- Serial Port A Interrupt:［IRQ 4］
- Serial Port B:［Enabled］
- Serial Port B I/O Address:［2F8］
- Serial Port B Interrupt:［IRQ 3］
- BIOS Redirection Port:［Serial Port B］
- Baud Rate:［19.2K］
- Flow Control:［CTS/RTS］
- Console Type:［PC ANSI］

電力制御機能に関する注意事項

EXPRESSSCOPE エンジン 2（BMC）のコマンドラインインターフェースやESMPRO/ServerManagerから、本体装置の消費電力を制御することができます。本機能を使用することで、サーバ消費電力の上限を低く抑えることができ、電力許容量が限られている設備環境に対してより多くのサーバを実装することが可能となります。
設定方法についてはEXPRESSSCOPE エンジン 2のユーザーズガイドもしくはESMPRO/ServerManagerのオンラインヘルプを参照してください。

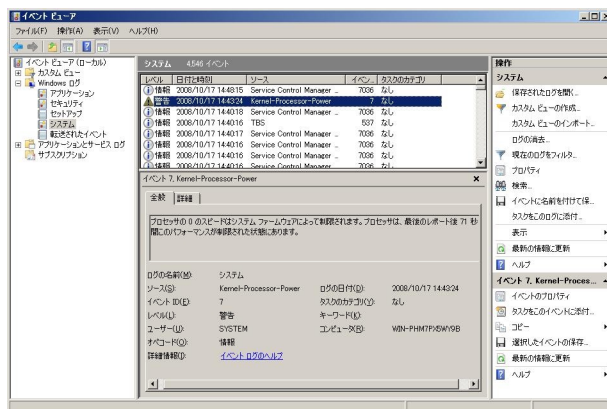
対応OSについて

電力制御機能はACPI(Advanced Configuration and Power Interface)で定義されているプロセッサのパフォーマンスステート(P-State)を利用しているため、P-Stateに対応したOSが必要となります。装置のサポートOSのうち、次のOSにて電力制御機能を利用することができます。

電力制御機能対応OS

- Windows Server 2003, Standard Edition(SP 1以降)
- Windows Server 2003, Enterprise Edition(SP 1以降)
- Windows Server 2003 R2, Standard Edition
- Windows Server 2003 R2, Enterprise Edition
- Windows Server 2003 R2, Standard x64 Edition
- Windows Server 2003 R2, Enterprise x64 Edition
- Windows Server 2008, Standard
- Windows Server 2008, Enterprise
- Windows Server 2008, Standard x64
- Windows Server 2008, Enterprise x64
- Windows Server 2008 R2, Standard x64
- Windows Server 2008 R2, Enterprise x64
- Red Hat Enterprise Linux 5.4以降
- Red Hat Enterprise Linux 5.4以降 (EM64T)

Windows Server 2008使用時の留意点

Windows Server 2008で電力制御機能を利用するとイベントビューアに次のようなイベントログが登録されますが、装置側でP-Stateを制御しているために登録されるイベントログであり、動作に問題はありません。

移動と保管

本体を移動・保管するときは次の手順に従ってください。

警告

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。人が死亡する、または重傷を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 自分で分解・修理・改造はしない
- リチウムバッテリを取り外さない
- プラグを差し込んだまま取り扱わない

装置を安全にお使いいただくために次の注意事項を必ずお守りください。火傷やけがなどを負うおそれや物的損害を負うおそれがあります。詳しくは、iii ページ以降の説明をご覧ください。

- 1人で持ち上げない
- 中途半端に取り付けない
- 指を挟まない
- 高温注意

重要

- フロアのレイアウト変更など大掛かりな作業の場合はお買い上げの販売店または保守サービス会社に連絡してください。
- ハードディスクドライブに保存されている大切なデータはバックアップをとっておいてください。
- ハードディスクドライブを内蔵している場合はハードディスクドライブに衝撃を与えないように注意して本体を移動させてください。
- 再度、運用する際、内蔵機器や本体を正しく動作させるためにも室温を保てる場所に保管することをお勧めします。
  装置を保管する場合は、保管環境条件（温度：-10℃～55℃、湿度：20%～80%）を守って保管してください（ただし、結露しないこと）。

1. 本体にディスクやテープメディアをセットしている場合は取り出す。
2. 本体の電源をOFF（POWERランプ消灯）にする。
3. 本体に接続している電源コードをコンセントから抜く。
4. 本体に接続しているケーブルをすべて取り外す。
5. 本体に傷がついたり、衝撃や振動を受けたりしないようしっかりと梱包する。

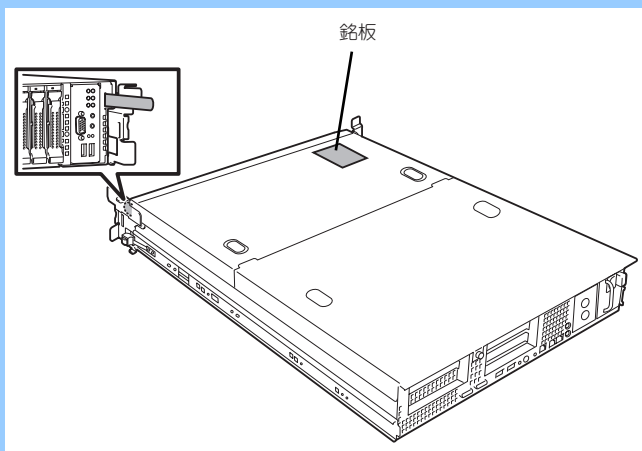
輸送後や保管後、装置を再び運用する場合は、運用の前にシステム時計の確認・調整をしてください。
システム時計を調整しても時間の経過と共に著しい遅れや進みが生じる場合は、お買い求めの販売店、または保守サービス会社に保守を依頼してください。
本装置および、内蔵型のオプション機器は、寒い場所から暖かい場所に急に持ち込むと結露が発生し、そのまま使用すると誤作動や故障の原因となります。装置の移動後や保管後、再び運用する場合は、使用環境に十分なじませてからお使いください。

ユーザーサポート

アフターサービスをお受けになる前に、保証およびサービスの内容について確認してください。

保証について

本装置には『保証書』が添付されています。『保証書』は販売店で所定事項を記入してお渡ししますので、記載内容を確認のうえ、大切に保管してください。保証期間中に故障が発生した場合は、『保証書』の記載内容にもとづき無償修理いたします。詳しくは『保証書』およびこの後の「保守サービスについて」をご覧ください。
保証期間後の修理についてはお買い求めの販売店、最寄りの弊社または保守サービス会社に連絡してください。

- **弊社製以外（サードパーティ）の製品、または弊社が認定していない装置やインタフェースケーブルを使用したために起きた装置の故障については、その責任を負いかねますのでご了承ください。**
- **本体に、製品の形式、SERIAL No.（号機番号）、定格、製造業者名、製造国が明記された銘板がトップカバーまたは装置前面のスライドタグに貼ってあります。販売店にお問い合わせする際にこの内容をお伝えください。また銘板の製造番号と保証書の保証番号が一致していませんと、保証期間内に故障した場合でも、保証を受けられないことがありますのでご確認ください。万一違う場合は、販売店にご連絡ください。**

修理に出される前に

「故障かな？」と思ったら、以下の手順を行ってください。

1. 電源コードおよび他の装置と接続しているケーブルが正しく接続されていることを確認します。
2. 「障害時の対処（372ページ）」を参照してください。該当する症状があれば記載されている処理を行ってください。
3. 本装置を操作するために必要となるソフトウェアが正しくインストールされていることを確認します。
4. 市販のウィルス検出プログラムなどでシステムをチェックしてみてください。

以上の処理を行ってもなお異常があるときは、無理な操作をせず、お買い求めの販売店、最寄りの弊社または保守サービス会社にご連絡ください。その際にサーバのランプの表示やディスプレイ装置のアラーム表示もご確認ください。故障時のランプやディスプレイによるアラーム表示は修理の際の有用な情報となることがあります。保守サービス会社の連絡先については、付録B「保守サービス会社網一覧」をご覧ください。
なお、保証期間中の修理は必ず保証書を添えてお申し込みください。

この装置は日本国内仕様のため、弊社の海外拠点で修理することはできません。ご了承ください。

修理に出される時は

修理に出される時は次のものを用意してください。

- □ 保証書
- □ ディスプレイ装置に表示されたメッセージのメモ
- □ 障害情報（415ページに記載している情報などが含まれます。障害情報は保守サービス会社から指示があったときのみ用意してください。）
- □ 本体・周辺機器の記録

補修用部品について

本装置の補修用部品の最低保有期間は、製造打ち切り後5年です。

保守サービスについて

保守サービスは弊社の保守サービス会社、および弊社が認定した保守サービス会社によってのみ実施されますので、純正部品の使用はもちろんのこと、技術力においてもご安心の上、ご都合に合わせてご利用いただけます。
なお、お客様が保守サービスをお受けになる際のご相談は、弊社営業担当または代理店で承っておりますのでご利用ください。保守サービスは、お客様に合わせて2種類用意しております。

保守サービスメニュー

契約保守サービス	お客様の障害コールにより優先的に技術者を派遣し、修理にあたります。この保守方式は、装置に応じた一定料金で保守サービスを実施させていただくもので、お客様との間に維持保守契約を結ばせていただきます。さまざまな保守サービスを用意しています。詳しくはこの後の説明をご覧ください。
未契約修理	お客様の障害コールにより、技術者を派遣し、修理にあたります。保守または修理料金はその都度精算する方式で、作業の内容によって異なります。

弊社では、お客様に合わせてさまざまな契約保守サービスを用意しております。サービスの詳細については、「NEC コーポレートサイト（http://www.nec.co.jp/）［サポート・ダウンロード］－［PCサーバ］」の「サポート情報」をご覧ください。

- **サービスを受けるためには事前の契約が必要です。**
- **サービス料金は契約する日数/時間帯により異なります。**

情報サービスについて

本製品に関するご質問・ご相談は「ファーストコンタクトセンター」でお受けしています。
※　電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

ファーストコンタクトセンター
TEL. 03-3455-5800（代表）

受付時間／9:00〜12:00、13:00〜17:00　月曜日〜金曜日（祝祭日を除く）

お客様の装置本体を監視し、障害が発生した際に保守拠点からお客様に連絡する「エクスプレス通報サービス/エクスプレス通報サービス(HTTPS)」の申し込みに関するご質問・ご相談は「エクスプレス受付センター」でお受けしています。
※　電話番号のかけまちがいが増えております。番号をよくお確かめの上、おかけください。

エクスプレス受付センター
TEL. 0120-22-3042

受付時間／9:00〜17:00　月曜日〜金曜日（祝祭日を除く）

インターネットでも情報を提供しています。

[NECコーポレートサイト]　http://www.nec.co.jp/

製品情報やサポート情報など、本製品に関する最新情報を掲載しています。

http://www.fielding.co.jp/

NECフィールディング（株）ホームページ：メンテナンス、ソリューション、用品、施設工事などの情報をご紹介しています。